

平成 15 年度(2003 年)
事業報告書

財団法人 日本テニス協会

平成15年度 主要会議報告

平成15年

4月15日(火)	第1回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館4階会議室
5月14日(水)	第2回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館5階会議室
5月22日(木)	第2回	理事会	岸記念体育会館地下講堂
5月22日(木)	第1回	評議員会	岸記念体育会館地下講堂
6月23日(月)	第3回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館5階会議室
7月15日(火)	第4回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館5階会議室
8月19日(火)	第5回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館5階会議室
9月16日(火)	第6回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館5階会議室
10月23日(木)	第7回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館4階会議室
11月18日(火)	第8回	常務理事・本部長会議	有明コロシアム2階会議室
12月4日(火)	第9回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館4階会議室

平成16年

1月20日(火)	第10回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館4階会議室
2月18日(水)	第11回	常務理事・本部長会議	青少年総合センター研修室
3月16日(火)	第12回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館4階会議室
3月24日(水)	第3回	理事会	岸記念体育会館4階会議室
3月24日(水)	第2回	評議員会	岸記念体育会館5階会議室

以上

平成 15 年度 表彰伝達式 受賞者一覧

特別功労賞

日本テニス協会 : 宮城 黎子 ・ 織田 和雄 ・ 小田 晶子

功労賞

北信越テニス協会 : 井口 勝夫
関東テニス協会 : 武谷 直也 ・ 内藤 恵子 ・ 平野 健
長澤 孝雄
東海テニス協会 : 若林 廉二郎 ・ 大地 千秋 ・ 塩谷 栗夫
関西テニス協会 : 富岡 保雄 ・ 大西 哲夫
中国テニス協会 : 浜本 幸男
四国テニス協会 : 勝沼 栄子 ・ 入交 一雄
九州テニス協会 : 中野 義郎

企業賞

日本テニス協会 : ワールド通商株式会社 ・ 株式会社ミネムラ
奥アンツーカ株式会社 ・ ブリヂストンスポーツ株式会社
日本道路株式会社 ・ スポーツサーフェス株式会社
株式会社 NIPPO コーポレーション ・ 東亜道路工業株式会社
テイエヌネット株式会社 ・ プーマジャパン株式会社

優秀団体賞

日本テニス協会 : 園田学園女子大学

優秀選手賞

強化委員会 : 杉山 愛

ジュニア大賞

ジュニア委員会 : 錦 織 圭

優秀指導者賞

ジュニア委員会 : 柏井 正樹

メディア賞

広報委員会 : 京都新聞社

以上

財団法人日本テニス協会 平成15年度 事業報告書

自平成15年4月1日 至平成16年3月31日

1. テニスの普及及び指導

(1) 全日本選手権キッズジュニアクリニックの開催〔選手委員会〕

全日本テニス選手権大会開催中の平成15年11月23日(日)、有明コロシアム・有明テニスの森公園テニスコートを使用して開催した。昨年に引続き NTT ドコモ社会環境室ならびにテニス部の協力を頂き、用具については S R I スポーツ(株)、ダイワ精工(株)、ヨネックス(株)、ブリヂストンスポーツ(株)、アメアスポーツジャパン(株)、ミズノ(株)、(株)ゴーセンの各社のご協力を頂いた。今回は原点に戻り1日のみの開催としたが、例年に比べ申込者数が多くコート数の不足から一部抽選としたほどで、参加者は124名であった。内訳は、A(5歳～未就学児/未経験者)24名、B(小学生/未経験者)25名、C(小学生/楽しむ程度経験者)56名、D(小学生/試合経験者)19名であり、JTA ホームページや JTA メルマガによって知ったという参加者が多かった。

(2) キッズテニスの積極的な普及〔普及委員会〕

- ①伊達事務所に協力して、テニスの日、全日本選手権、日本リーグでカモンキッズテニスを開催した。
- ②7月24日、8月21日の2回、東京・港区スポーツセンターにて「キッズテニス講習会」を開催した。
- ③江東区スポーツセンター数ヶ所と平成16年度開催予定のキッズテニス教室の打合せを行った。
- ④「幼稚園・小学生プロジェクト」のモデルケースの準備を開始した。

(3) テニスの日事業に対する協力〔普及委員会〕

- ①9月23日に「テニスの日メインイベント」を東京・有明で開催。7,000名参加。
- ②9月23日を中心とした9月下旬に「テニスの日共同イベント」を全国各地15会場で開催。
- ③9月23日を中心とした9月中に「テニスの日個別イベント」を全国各地会場で開催。
- ④テニスの日推進協議会・本会議を年間3回開催した。
- ⑤テニスの日推進協議会・実行委員会を年間3回開催した。
- ⑥テニスの日推進協議会・有明委員会を年間3回開催した。
- ⑦その他、必要に応じて事務局打合せを頻繁に行った。

2. 全日本テニス選手権大会及びその他のテニス競技会の開催並びに国内で開催されるテニス競技会の後援、公認

(1) 各種国際大会の後援・公認〔国際大会委員会〕

<公認大会>

- ①東レ パン・パシフィック・テニス (東京/1月27日～2月2日)
- ②山口国際女子(山口/4月15日～20日)*新設
- ③カンガルーカップ国際女子 (岐阜/4月29日～5月4日)
- ④福岡国際女子オープン (福岡/5月7日～11日)
- ⑤軽井沢国際女子 (長野/5月13日～18日)
- ⑥草津国際女子 (群馬/5月20日～25日)
- ⑦広島国際女子(広島/9月23日～28日)*新設
- ⑧榛原国際女子 (静岡/10月16日～20日)
- ⑨昭和の森国際女子(東京/10月23日～27日)

- ⑩須玉国際女子（山梨/10月29日～11月4日）
- ⑪甲府男子フューチャーズ F1(山梨/4月7日～12日)
- ⑫昭和の森男子フューチャーズ F2(東京/4月14日～19日)
- ⑬熊本男子フューチャーズ F3(熊本/4月21日～26日)
- ⑭SANIX 男子フューチャーズ(宗像市 SARSのため市より中止要請あり)
*当初予定は5月21日～26日・5月28日～6月2日
- ⑮兵庫国際ジュニア大会（三木市/第1週=9月3日～7日
第2週=9月10日14日）*新設

(2)各種国内大会の主催ならびに後援・公認〔国内大会委員会〕

- ①平成15年度においては下記の各大会を主催した。（*共催含む）

<一般主催大会>

- 第27回 全日本都市対抗テニス大会
- JTA 女子サーキット 第1戦 グリーンプラザ国際女子オープン 2003
- 第42回 全国実業団対抗テニス大会（ビジネスパル）
- JTA グランドスラムフューチャーズ F6 TTC 柏オープン 2003
- JTA 女子サーキット 第2戦 関彰国際女子オープン 2003
- JTA グランドスラムフューチャーズ F7 埼玉オープン 2003
- JTA 女子サーキット 第3戦 九州国際女子オープン 2003
- JTA 女子サーキット 最終戦 日本電池マスターズ 2003
- 2003 国民体育大会 テニス競技
- AIG OPEN 2003
- 全日本ローンコートテニス選手権大会
- 第17回 全国実業団対抗テニストーナメント
- 全国レディーステニス 決勝大会 2003
- 第78回 全日本テニス選手権大会
- 第18回 テニス日本リーグ
- 第40回 島津全日本室内テニス選手権大会 2004

<ジュニア主催大会>

- トヨタジュニアテニストーナメント 2003
- SHUZO Challenge JAPAN OPEN JUNIOR 2003
- DUNLOP CUP 全国選抜ジュニアテニス選手権大会
- 第21回 全国小学生テニス選手権大会
- 第93回 全国高等学校テニス選手権大会
- 第26回 全国高等専門学校テニス選手権大会
- DUNLOP 全日本ジュニアテニス選手権大会
- 第30回 全国中学生テニス選手権大会
- 第12回 日・韓・中ジュニア交流競技テニス競技
- 2003 国民体育大会テニス競技
- ワールドスーパージュニアテニス 2003
- 2003 日植杯 RSK 全国選抜ジュニアテニス大会
- 第22回 中牟田杯全国選抜ジュニアテニス選手権大会
- ヨネックスカップ 2004 第24回全日本ジュニア選抜室内テニス選手権大会
- 第26回 全国選抜高校テニス大会

<ベテラン主催大会>

- 第65回 全日本ベテランテニス選手権大会
- 全日本ローンコートベテランテニス選手権大会
- 日本スポーツマスターズ 2003

<学生公認大会>

- 全日本学生テニス選手権大会
- 全日本大学対抗テニス王座決定試合

全日本学生室内テニス選手権大会

(3)国内トーナメント（一般大会）の円滑な運営と管理〔国内大会委員会〕

①トーナメント改革の推進

- 1)シングルスもしくはダブルスしか行わないトーナメントにおける賞金配分率を改訂した。（コートの友 118～119 頁）
- 2)JTT 大会管理規則の改訂
予選におけるドロウの構成を改訂した。（コートの友 127 頁）
- 3)全日本テニス選手権大会管理規則の改訂
本戦および予選の出場枠を改訂した。（コートの友 136 頁）
- 4)JTP（Japan Tennis Tour Point）の配分率を改訂した。（コートの友 205 頁）
- 5)JOP（Japan Official Point）
 - ・JOP 配分率を改訂した。（コートの友 211～213 頁）
 - ・JTP→JOP 換算率を改訂した。（コートの友 209 頁）

②全日本テニス大会を成功させる

平成 15 年 11 月 17 日（月）～23 日（日）、有明テニスの森公園コート（コロシムを含む）で開催。賞金総額 26 百万円。男女単・複・混合複計 5 種目の本戦に、延べ 256 名が参加。観客動員数計 22,197 人。男女共単決勝戦の様子は NHK 総合 TV で放映された。

③JOP 大会の点検

諸点検の内、特記事項として、サスペンション・ポイントを賦課されたプレイヤーのチェックを厳密に行い、下記を実施した。

- 1)過去 12 ヶ月間の累積ポイントが 5 点を超えたプレイヤーを、規則に基づき出場停止処分にした。03 年 4 月～04 年 3 月までの処分者は、04 年 5 月男子 1 名、同 6 月男子 3 名の合計 4 名（女子は 0）であったが、7 月以降は発生していない。
- 2)過去 12 ヶ月間の累積ポイントが 4 点に達したプレイヤーに対して警告書を発行した。
- 3)上記 2 項を、これに関する JOP 大会主催者に文書で通知した。

④その他

1)JTT 大会、JOP 大会の公認

04 年 4 月～05 年 3 月迄の、JTA 主催大会を除く以下のトーナメントを公認した。

- ・JTT 大会 14 大会。（うち男子 9、女子 5）
- ・JOP カテゴリー A の男子 115 大会、女子 96 大会。
- ・JOP カテゴリー B の男女 14 大会。
- ・JOP カテゴリー C の男女 46 大会。

2)スケジュール調整会議とテニスカレンダーの作成

- ・前項に基づき、03 年 11 月 27 日、岸体育会館会議室にて、公認大会主催関係者出席による日程調整会議を開催した。
- ・前項①に基づき、04 年 1 月末日に 04 年度テニスカレンダーを作成、発表した。

3)JTT 大会ディレクター会議を開催した（03 年 11 月 27 日・岸体育会館会議室内）

(4)各種大会へのレフェリー・審判員の派遣〔審判委員会〕

年間公認審判員有資格者（B 級以上）の大会希望を取りまとめ、各大会へベストの審判員を送るべく努力している。長期に亘る予定のため審判員の予定変更が多い。また大会の予算制限により、ベストの審判員のアサイメントが難しく、担当者にとって大変な作業であった。

- ①各大会の指名主審に任命された審判員は、12 項目からなる「審判員の勤務環境についてのレポート」を大会毎に提出する。委員会の見解を年度末に集計しバッジホルダー審判員に配布している。
- ②レフェリー・主審・チーフオブアンパイア勤務表は別紙参照
- ③ラインアンパイア・ボールパーソン勤務数：

	ラインアンパイア	ボールパーソン
デビスカップ (豊田)	22	12
フェドカップ (岐阜)	22	12
フェドカップ (有明)	366 (延べ人数)	240 (延べ人数)
全日本	340 (延べ人数)	260 (延べ人数)
AIG Japan Open	500 (延べ人数)	380 (延べ人数)
他の国際大会 (23)	1,200	
国内大会 (1)	46	

(5) 全日本ベテラン選手権大会の開催(ベテラン委員会)

予選：平成 15 年 10 月 6 日 男子単 60,65 才以上, 女子単 50,55,60 才以上
平成 15 年 10 月 7 日 男子単 50,55 才以上
平成 15 年 10 月 8 日 男子単 35,40 才以上
平成 15 年 10 月 9 日 男子単 45 才以上, 女子単 40,45 才以上

本戦：平成 15 年 10 月 6 日～10 月 14 日 9 日間

種目：男子単 35,40,45,50,55,60,65,70,75 才以上 9 種目
男子複 35,40,45,50,55,60,65,70,75 才以上 9 種目
女子単 40,45,50,55,60,65 才以上 6 種目
女子複 40,45,50,55,60,65,70 才以上 7 種目 以上 31 種目

会場：名古屋市・東山公園テニスセンター

【室内外共砂入り人工芝コート 20 面 (内 4 面室内)】

参加資格：①JTA に当該年度 (平成 15 年 4 月 1 日～平成 16 年 3 月 31 日) の選手登録を行なったアマチュア・プロフェッショナル登録者

②ベテラン JOP ランキング規程によるベテラン JOP 取得者

参加人数：予選 男子単 7 種目 84 名, 女子単 5 種目 50 名, 計 134 名

本戦 男子単 9 種目 260 名, 男子複 9 種目 144 組 288 名, 計 18 種目 548 名
女子単 6 種目 132 名, 女子複 7 種目 140 組 280 名, 計 13 種目 412 名
計 31 種目 960 名 総計 1094 名

グレード：A

補足：ベテラン JOP 対象大会は、グレード A の本大会を頂点として、B1(1 大会), B2(2 大会), C1(2 大会), C2(2 大会), D1(5 大会), D2(2 大会), E1(6 大会), E2(20 大会), 及び日本スポーツマスターズテニス競技の計 42 大会がある。

(6) 全日本ローンコートベテラン選手権大会の運営協力(ベテラン委員会)

本戦：平成 15 年 10 月 30 日～11 月 8 日 10 日間

種目：全日本ベテラン選手権大会と同様の、男女単複 31 種目

会場：佐賀市・ウィンブルドン九州テニスクラブ【天然芝コート 15 面】

参加資格：全日本ベテラン選手権大会と同じ

参加人数：男子単 9 種目 158 名, 男子複 9 種目 71 組 142 名, 計 18 種目 300 名
女子単 6 種目 72 名, 女子複 7 種目 71 組 142 名, 計 13 種目 214 名
計 31 種目 514 名

グレード：B1

補足：全日本ベテラン選手権大会に次ぐ大会であり、わが国唯一の天然芝コートの会場である。

(7) 47 都道府県協会主催のベテラン JOP E 大会の推進と運営協力(ベテラン委員会)

長寿社会を迎えた今日、47 都道府県協会のベテランテニスの普及と活性化を助長するとともに、各協会の更なる繁栄を祈念して、昨年当委員会が策定した「ベテランテニスの発展拡充計画」の一方策として、昨年 JTA 理事会にて承認されたグレード E 大会は、本年 E1 大会 6 大会, E2 大会 20 大会計 26 大会となった。その承認条件は、①全日本ベテラン大会の開催種目中、男女計 6 種目以上開催の大会であること。

- ②承認大会は各協会 1 大会とするが、北海道協会は 2 大会までとする。
- ③アマ・プロ・賞金・選手登録の有無を問わず、全国に参加を開放する大会はグレード E1、前記以外はグレード E2 とする。承認料は不要とする。
- ④JTA に選手登録をしている者には、当該年度の全日本ベテラン大会の参加申込みにあたって、取得した高得点の E ポイント 1 大会分に限り加算して申込みをすることができる。選手登録をしていない者には E ポイントは付与しない。
- 以上の結果、本年度の E 大会は前記の通りとなり、昨年の 18 大会を大きく上回り、選手登録者も平成 14 年度末（平成 15 年 3 月末）の 5,171 名に対し、平成 15 年 12 月末には 5,300 名に増加しており、E 大会の増加により更に増加するものと思われる。

(8) 日本スポーツマスターズ競技の運営協力(ベテラン委員会)

財団法人日本体育協会主催大会の委託事業として、第 3 回大会を共同主催し、運営主管の和歌山県テニス協会の運営に協力した。

開会式：平成 15 年 9 月 19 日 16：30～19：30

和歌山市・ホテルグランヴィア和歌山 出席者約 750 名

期 日：平成 15 年 9 月 20 日～23 日

会 場：川辺町サイクリングターミナルテニスコート

開 始 式：平成 15 年 9 月 20 日 09：00～09：40 全員出席

コート横の青少年研修所（台風 15 号の余波のため）

開始宣言 佐藤国三郎ディレクター（ベテラン委員長）

大会会長挨拶 盛田正明日本テニス協会会長

歓迎挨拶 正木義一郎和歌山県協会会長、坂本信夫川辺町町長、

佐藤直子シンボルメンバー

大会開催要項の説明 大谷明広レフェリーより、昨年の大会前日の選手説明会に代え、時間をかけて懇切丁寧なる説明を行った。

種 目：男子単 35 才以上、男子複 45 才以上、女子単複 40 才以上

参加資格：JTA 選手登録者にして、各協会推薦（推薦方法は任意）による男女単複各 1 名 1 組による者。（各 48 ドローとする）

辞退が出た場合は、あらかじめ順位をつけて複数参加を申し出ている協会を対象に、ベテラン JOP ランキング順にワイルドカードとして割り当てる。（最大 4 名 4 組まで）

参加人数：男子単 45 名、男子複 39 組（78 名） 計 123 名

女子単 44 名、女子複 36 組（72 名） 計 116 名 合計 239 名

不参加県が 7 県あり、従って参加率は定数の 87% となった。

その原因は、会場までの交通の利便性が大と思われる。

(9) 第 18 回テニス日本リーグの開催〔実業団委員会〕

①1st ステージ：平成 15 年 12 月 5 日（金）～7 日（日）

②2nd ステージ：平成 16 年 1 月 22 日（木）～25 日（日）

会場：1st、2nd ステージは横浜国際プール・荏原湘南スポーツセンター・

松本やまびこドーム・北九州穴生ドーム

③決勝トーナメント：平成 16 年 2 月 21 日（土）～22 日（日）

会場：東京体育館

男子 16 チーム、女子 10 チームをそれぞれ 2 ブロックに分けリーグ戦を行い、各ブロック上位 2 チーム、計 4 チームによる決勝トーナメントの実施。試合は 2 シングルス・1 ダブルスにて行う。デ杯・フェド杯選手と日本のトップ選手の出場もあって、大会の充実が増進、各会場盛況。東京体育館は 1 日 4000 名以上を動員。応援合戦もあり T V 放映(GAORA) も行う。選手・運営・観客の一体化も進んでいる。1 ステージの土曜日に、各地域会場にて出場選手の協力を得てジュニアクリニックを、決勝の東京体育館ではキッズテニスの実施と、東京都生涯学習文化財団と東京都教育委員会主催の親子クリニッ

クを開催、更に日本リーグ観戦招待の展開も行う。

(10) 実業団対抗大会の実施〔実業団委員会〕

① 第 17 回全国実業団対抗テニストーナメント(A 大会)

期日：平成 15 年 10 月 23 日(木)～26 日(日)

会場：大阪・江坂テニスセンター

内容：日本リーグ昇格チーム決定の大会。

男子 16 チーム、女子 12 チームにより行われ、男子上位 4 チーム、女子上位 4 チームが昇格。試合は日本リーグと同じく 2 シングルス・1 ダブルスにて行う。

② 第 42 回全国実業団対抗テニス大会(ビジネスパル・テニス)

期日：平成 15 年 8 月 29 日(金)～31 日(日)

会場：軽井沢町菅風越テニスコート及び NICOS テニスクラブ。

内容：男子 32 チーム・女子 24 チームの 1 シングルス・2 ダブルスによるリーグ戦及びトーナメントを行う。リーグ戦各ブロックの同順位毎にトーナメントを、全チーム 2～3 日間に渉り試合を行う。実業団の普及大会であるが、レベルは年々向上。選手間のコミュニケーションも深まり交流試合にまで発展もしている。楽しい大会として熱気も高まり、特に懇親会は大変盛り上がる。

問題点：地域格差はあるが、女子のチーム編成に難しさがあり A 大会出場チームが減少。検討委員会を開催し、対策を検討中。また、地域テニス協会にとって実業団は財源の大きなポイントと思われるが、その組織化に意欲的でないように見受けられる。東京都テニス協会を参考として PR していきたい。

(11) 国民体育大会テニス競技の運営〔国体委員会〕

第 58 回国民体育大会(静岡国体)

期日：平成 15 年 10 月 25 日(土)～29 日(水)

場所：静岡県浜松市・花川運動公園テニスコート

参加人数：成年男子 32 都道府県 96 人、成年女子 32 都道府県 96 人
少年男子 47 都道府県 141 人、少年女子 43 都道府県 129 人
合計 462 人

内容：浜松市・花川運動公園テニスコートの一会場で開催、前年同会場で開催されたリハーサル大会(全日本都市対抗テニス大会)での経験を生かし、無事何事もなく終了しました。第 1 日目に天皇・皇后両陛下の行幸啓があり、地元静岡県成年女子の試合をご観戦いただきました。

(12) 全日本対抗テニス大会の実施〔国体委員会〕

第 27 回全日本都市対抗テニス大会(第 59 回国民体育大会リハーサル大会)

期日：平成 15 年 7 月 18 日(金)～20 日(日)

場所：埼玉県川口市青木町公園総合運動場庭球場

参加人数：32 都道府県、381 人

内容：平成 16 年 10 月に行われる国民体育大会の運営のリハーサル大会として開催。6 年前の正規視察より準備を進めてきた地元静岡県テニス協会のご協力を得て、無事終了するも、幾つかの問題が生じたので、この経験を生かし本大会の成功にむけ、あと 1 年、万全なる準備をしてもらいたいを思います。

3. テニスに関する国際競技会を開催し、又は国際競技会への代表者の選考及び派遣並びに外国からの選手等の招聘

(1) 各種国際大会の開催ならびに外国からの選手招聘〔国際大会委員会〕

<一般主催大会>

- ①JTA 女子サーキット 第1戦 グリーン国際女子オープン 2003
- ②グランドスラム募金 JTA フェューチャーズ TTC 柏オープン 2003
- ③JTA 女子サーキット 第2戦 セキショウ女子オープン 2003
- ④グランドスラム募金 JTA フェューチャーズ 埼玉グリーンオープン 2003
- ⑤JTA 女子サーキット 第3戦 九州国際女子オープン 2003
- ⑥JTA 女子サーキット 最終戦 日本電池マスターズ 2003
- ⑦AIG OPEN 2003
- ⑧第40回 島津全日本室内テニス選手権大会 2004
(男子 ATP 京都チャレンジャー)

<ジュニア主催大会>

- ①SHUZO Challenge JAPAN OPEN JUNIOR 2003 (ITF=G1 大会)
- ②大阪市長杯ワールドスーパージュニアテニス 2003 (ITF=GA 大会)
- ③兵庫国際ジュニア大会 2003 (2大会) (ITF=G5 大会)

<デビスカップ>

- ①アジア・オセアニアゾーンプレーオフ
パキスタン戦 (豊田市体育館:平成15年4月4日~6日)

<フェドカップ>

- ①アジア・オセアニアゾーン地域予選
(有明テニスの森:平成15年4月21日~26日)
- ②ワールドグループプレーオフ スウェーデン戦
(岐阜メモリアルセンター・で愛ドーム:平成15年7月19~20日)

(2)デビスカップへの参加〔強化委員会〕

- ①デビスカップ アジア/オセアニアゾーン・グループ I プレーオフパキスタン戦
期 日:平成15年4月4日~6日
会 場:愛知県・豊田市体育館
監 督:神和住 純 スーパーバイザー:ボブ・ブレット
選 手:鈴木 貴男/本村 剛一/トーマス重太郎嶋田/寺地 貴弘
結 果:5勝0敗でグループ I 残留が決定
- ②デビスカップ アジア/オセアニアゾーン・グループ I 1回戦 インドネシア戦
期 日:平成16年2月6日~8日
会 場:インドネシア・ジャカルタ
監 督:神和住 純 スーパーバイザー:ボブ・ブレット
選 手:鈴木 貴男/本村 剛一/トーマス重太郎嶋田/寺地 貴弘
結 果:3勝2敗で2回戦に進出

(3)フェドカップへの参加〔強化委員会〕

- ①フェドカップ アジア/オセアニア地区予選 グループ I
期 日:平成15年4月21日~26日
会 場:東京都・有明テニスの森公園テニスコート並びに有明コロシアム
監 督:小浦 武志
選 手:杉山 愛/浅越しのぶ/小畑 沙織/藤原 里華
結 果:総当たり戦でAブロック1位となり、プレーオフ出場決定戦でインドネシアに勝利、ワールドグループプレーオフに進出
- ②フェドカップ ワールドグループ プレーオフ スウェーデン戦
期 日:平成15年7月19日・20日
会 場:岐阜県・岐阜メモリアルセンター・で愛ドーム
監 督:小浦 武志
選 手:杉山 愛/浅越しのぶ/小畑 沙織/森上亜希子
結 果:4勝1敗でワールドグループに昇格

(4)2003年テグ夏期ユニバーシアード大会への参加〔強化委員会〕

期 日：平成15年8月18日～9月1日
会 場：大韓民国・テグ
監 督：森井 大治 コーチ：谷澤 英彦・細木 祐子
トレーナー：横山 準二
選 手：加藤 季温／宮崎 雅俊／宮崎 靖雄／宮尾 祥慈／
道慶 知子／矢部由希子／波形 純理／松井 小麦
結 果：男子シングルス 宮崎 雅俊：3R／宮尾 祥慈：3R
女子シングルス 道慶 知子：3R／矢部由希子：1R
男子ダブルス 宮尾 祥慈・宮崎 靖雄：1R
女子ダブルス 矢部由希子・道慶 知子：ベスト8
混合ダブルス 加藤 季温・波形 純理：ベスト8

(5)ナショナルジュニア海外遠征〔強化委員会〕

<団体戦>

①ジュニアデビスカップ アジア・オセアニア予選

期 日：平成15年4月25日～5月5日
会 場：インドネシア・ジャカルタ
監 督：村上 武資
選 手：喜多 文明／会田 翔 /竹内 研人
結 果：9位(14か国中)

②ジュニアフェドカップ アジア・オセアニア予選

期 日：平成15年5月2日～12日
会 場：マレーシア・クアラルンプール
監 督：田村 伸也 コーチ：長塚 京子
選 手：田中 真梨／福井 恵実／高雄 恵利加
結 果：優勝(10か国中)

③ジュニアフェドカップ 世界大会

期 日：平成15年9月12日～22日
会 場：ドイツ・エッセン
監 督：田村 伸也 選 手：福井 恵実／田中 真梨／川村 美夏
結 果：8位(16か国中)

<個人戦>

①フレンチオープンジュニア遠征

(平成15年5月21日～6月9日、ベルギー・フランス)

コーチ：笠原 康樹 選 手：成瀬 廣亮／中原健一郎／不田 涼子／川床 萌

②U16ヨーロッパ遠征

(平成15年6月3日～7月4日よりU14ヤングスター遠征に合流、
イタリア・フランス)

コーチ：米沢 徹 選 手：喜多 文明／錦織 圭 /富田 玄輝

③ウィンブルドンジュニア遠征(平成15年6月16日～7月7日、イギリス)

コーチ：田村 伸也 選 手：成瀬 廣亮／中原健一郎／不田 涼子／川床 萌

④トヨタジュニア遠征Aチーム(平成15年6月25日～7月13日、タイ)

コーチ：村上 武資 トレーナー：田島 孝彦

選 手：会田 翔 /藤井 貴信

⑤トヨタジュニア遠征Bチーム(平成15年6月26日～7月14日、オーストラリア)

コーチ：岩本 功 選 手：竹内 研人／富田 玄輝

福井 恵実／前澤かおる／久見香奈恵／川村 美夏

⑥USオープンジュニア遠征(平成15年8月20日～9月5日、アメリカ)

コーチ：岩本 功 選 手：不田 涼子

- ⑦U18 秋期男子アジアジュニアサーキット遠征
(平成 15 年 10 月 15 日～11 月 10 日、タイ・ヴェトナム)
コーチ：兼城 悦子 選手：藤井 貴信
- ⑧U18 アジア・オセアニア遠征
(平成 15 年 11 月 21 日～12 月 16 日、マレーシア・オーストラリア)
コーチ：村上 武資
選手：竹内 研人／会田 翔／藤井 貴信／瀬間友里加
- ⑨オーストラリアンオープンジュニア遠征
(平成 16 年 1 月 6 日～29 日、オーストラリア)
コーチ：田村 伸也 選手：瀬間友里加
- ⑩U16 オーストラリア遠征 (平成 16 年 2 月 15 日～3 月 7 日、オーストラリア)
コーチ：岩本 功／米沢そのえ
選手：伊藤 竜馬／小ノ澤 新／森田あゆみ／伊藤絵美子
- ⑪U18 春期男子アジアジュニアサーキット遠征
(平成 16 年 2 月 25 日～3 月 29 日、ブルネイ・インドネシア・マレーシア・タイ)
コーチ：兼城 悦子 選手：藤井 貴信
- ⑫U18 春期女子アジアジュニアサーキット遠征
(平成 16 年 3 月 19 日～4 月 3 日、タイ・フィリピン)
コーチ：田村 伸也／緒方 俊亮 選手：瀬間友里加／福井 恵実

(6) ナショナルジュニア海外遠征 [ジュニア委員会]

<団体戦>

- ①ワールドジュニア アジア・オセアニア予選
期 日：平成 15 年 5 月 19 日～24 日
会 場：オーストラリア・メルボルン
監 督 (男子)：右近 憲三
選 手 (男子)：喜多 文明／錦織 圭／熊谷 宗敏
結 果 (男子)：2 位 (12ヶ国中)
監 督 (女子)：山中 夏雄
選 手 (女子)：森田あゆみ／加藤 茉弥／伊藤絵美子
結 果 (女子)：2 位 (11ヶ国中)
- ②ワールドジュニア 世界大会
期 日：平成 15 年 8 月 11 日～16 日
会 場：チェコ・プロステヨフ
監 督 (男子)：右近 憲三
選 手 (男子)：喜多 文明／錦織 圭／熊谷 宗敏
結 果 (男子)：2 位 (16ヶ国中)
監 督 (女子)：山中 夏雄
選 手 (女子)：森田あゆみ／加藤 茉弥／伊藤絵美子
結 果 (女子)：8 位 (16ヶ国中)

<個人戦>

- ①U14 ヤングスター遠征
(平成 15 年 7 月 1 日～8 月 9 日よりワールドジュニア世界大会に参加、
フランス・オランダ・ドイツ・ベルギー)
コーチ：米沢そのえ・櫻井 隼人
選 手：喜多 文明／錦織 圭／熊谷 宗敏
森田あゆみ／加藤 茉弥／小田 彩織／伊藤絵美子
- ②U14・U12 アメリカ遠征 (平成 15 年 11 月 24 日～12 月 25 日、アメリカ)
コーチ：山中 夏雄／白田 浩史／米沢そのえ
選 手：森田あゆみ／加藤 茉弥／伊藤絵美子
鈴木 昂／関口 周一／奈良くるみ／井上 雅

(7)ベテラン世界大会への選手派遣〔ベテラン委員会〕

- ① I T F主催 年齢別世界ベテラン選手権Aグループ大会
＜団体戦＞（平成15年8月10日～17日）ドイツ・BIELEFELD 1チーム2名
1)男子45才以上（DUBLER CUP）19ヶ国中11位 廣岡孝通・小川 敏
＜個人戦＞（平成15年8月18日～24日）ドイツ・HANNOVER 5名
1)男子35才以上 長谷川智仁・加藤全孝・伊藤健二
2)男子40才以上 加藤全孝（単のみ）
3)男子45才以上 廣岡孝通・小川 敏（廣岡・小川3回戦敗、他は全員初回戦敗）
- ② I T F主催 年齢別世界ベテラン選手権Bグループ大会
＜団体戦＞（平成15年10月19日～26日）トルコ・ANTALYA 7チーム24名
1)男子55才以上（AUSTRIA CUP）21ヶ国中14位 塩見芳彦・上田 滋
2)男子60才以上（VON CRAMM CUP）22ヶ国中15位
藤井道雄・広瀬 均・恩知宗和・田中日出男
3)男子65才以上（BRITANNIA CUP）20ヶ国中11位
藤原堅三・土屋善二・辻本 明・生川芳久
4)男子70才以上（JACK CRAWFORD CUP）17ヶ国中5位
宮城 淳・徳弘晴輝・森 成蹊・宮地邦雄
5)女子60才以上（ALICE MARBLE CUP）13ヶ国中10位
南井多恵子・徳弘千世香・原野幸子・金原洋子
6)女子65才以上（KITTY GODFREE CUP）12ヶ国中11位
井上文枝・松岡允江・石井伸子
7)女子70才以上（ALTHEA GIBSON CUP）12ヶ国中7位
村松敏子・金子千春・斉藤恵美子
＜個人戦＞（平成15年10月26日～11月2日）トルコ・ANTALYA 33名
1)男子55才以上 塩見芳彦
2)男子60才以上 藤井道雄・広瀬 均・恩知宗和・玉水義一・田中日出男・
安達正純・神谷邦夫・平澤敏之
3)男子65才以上 藤原堅三・土屋善二・辻本 明・生川芳久・坂上日出夫・
栗田俊男
4)男子70才以上 宮城 淳・徳弘晴輝・森 成蹊・宮地邦雄・伊藤光郎
5)女子55才以上 永井江吏子・足立江津子・樋口五十鈴
6)女子60才以上 南井多恵子・徳弘千世香・原野幸子・柚木邦子
7)女子65才以上 井上文枝・鈴木美智子
8)女子70才以上 村松敏子・石井伸子・金子千春・斉藤恵美子
成 績：男子70才以上宮城単ベスト4、その他の選手は初回戦敗～ベスト8敗
- ③ A T F公認 アジア都市対抗国際ベテラン大会
主 催：タイ・ベテランテニス協会
期 日：平成15年11月24日～30日
会 場：タイ・チェンマイ
種 目：男子複50,55,60,65,70才以上各1組、女子複50,55才以上各1組、計7組の団体戦
参加選手：土屋善二・村上交周・小野敏男・川口温弘・木村康彦・渡辺 聡・
竹下友基・守屋 明・尾田行令・奥村迪雄・玉水義一・向井龍義・
松岡かよ子・小川かよ子・原 百代・福永真由美 以上16名
成 績：参加チーム10チーム中5位
- ④ I T F公認 第17回北京市国際ベテラン大会
期 日：平成15年10月23日～26日
種 目：男子単40,45,50,55,60才以上 5種目
男子複40,45,50,55,60,65,70,75,80才以上 9種目
女子単35,40,45,50才以上 4種目

女子複 35,40,45,50,55,60,65 才以上 7 種目
混合複 A115 才以上, B90~114 才 2 種目

参加資格：JTA への選手登録の有無を問わない自由参加。知人・友人・家族の参加も可とする。

参加選手：佐藤国三郎・村上交周・小泉 茂・浅川義基・安部策夫・小路康男・遠藤弘海・川島マチ子・前川美智子・畔川和子・畑中八重子 以上 11 名

成績：男子 40 才以上単優勝 小路康男
男子 40 才以上複準優勝 小路康男・遠藤弘海組
男子 50 才以上単準優勝 村上交周

(8)AIG オープン 2003 の開催 [ジャパンオープン委員会]

当初アメリカのテロ事件でスポンサーの AIG の確定が遅れた事で準備も遅れたが、当初の目標に向かって「観客がテニス以外で楽しめる大会を目指す。トッププレイヤーの出来に頼ることなく、来年も来てくれるような大会にする。観客数の目標 5 万人」スタートした。

大会価値を如何に向上させるか、種々努力をいたしました結果、本年は幸運にも予選初日から最終日まで晴天が続きスケジューリング的には極めて順調に進んだ。また、トップ選手も順調に勝ち進み男子決勝は第 1 シードと第 2 シードの対決となり理想的な組み合わせと成った。女子も人気選手のシャラポバが単複に優勝し観客動員面では日本選手の早いラウンドでの敗退をカバーした。

当初大会の目標は観客数を 50,000 人と置きその為に観客サービスの強化を図った。また同時にスポンサーサービス、選手サービスも上昇させた。残念ながら観客数では目標には 3% 及ばなかったが過去最高の 48,487 人を達成した。

大会の目標は観客とスポンサーにとっての価値を上げる事であったが昨年と比較して価値レベルが高くなって来たと感じる。IMG の報告によると大会のメディア価値も昨年から 2 億円アップの 4 億 8300 万円となった。今後は更にエンターテインメントビジネスに徹し大会価値を上げるようにしたい。

①観客サービス

- 1) 飲食ゾーン、ケータリングカー、インフォメーションブース、ジャンボスクリーン、大道芸人、お祭り広場のブース、大テント等に 1,000 万円近くの投資をした。
- 2) VIP 席用のワイン等も購入で充実を図った。
- 3) 今回のボランティアの組織は見事で観客サービス、大会運営に大きく貢献した。お蔭で大会も大きく盛り上がった。来年以降も更に充実される事を期待する。
- 4) 飲食関係をもっと充実させる事で大会での観客サービスはアップグレード出来る。

②スポンサーサービスの強化

- 1) 観客サービスにも通じるが読売新聞での事前告知に 1,200 万円程度の投資をした。
- 2) NHK を事前に何回も訪問し中継での AIG の露出及びニュースでの取り上げをお願いした。これが効を奏したのか昨年のニュース露出ゼロに比較して今年はかなり多かった。しかし視聴率があまりに低く、番組宣伝等での今後の課題が残った。
- 3) AIG 関連の顧客サービスへの協力としてクリニック、懇談会への選手の参加等で種々の協力をした。ATP・WTA からの協力も大きかった。
- 4) マイクロソフトのインターネットでの取り上げ、及び英語の大会 Web-site、JTA のホームページの充実に 200 万円近くを使った。
- 5) オンコートイベントでの松岡修造氏の活躍が光った。

③選手サービス

賞金を合計で 10 万ドル近くを減らしたが契約選手のアピランスフィー、航空券の補助、選手への食事の充実、ランドリーの補助、ホテルの部屋の充実に廻した。また、例年より選手へのタクシー、ボランティアによるベンツでの送迎等も充実させたため選手は昨年より満足の様子であった。

今後必要な事は、今回、新たに導入した色々な策を更に強化する事である。また観客サービスの一環として全体地図例えば 1・2 番コートへの道を大きく書くことが

必要。

スーパーバイザーから、ATP・WTA より今年のドクターは素晴らしかったとの評価が有り医科学委員会には感謝します。今大会へのクレームは極めて少なかったが1)ボールが堅くて重い。

2)センターコート以外のスピードが極めて速く世界中のツアーでも最も速いと言える。もう少し遅くしてセンターに近づけて欲しいとの事があった。

④総括

最後に特筆すべき事として電通からの独立が上げられる。これまでの事務局は電通とDMSに大きく依存していた。これは1987年に現在の大会規模に上げて有明に移って以来である。

これまでは少しずつ業務をJTAに取り込んできたが今年はJTAが主体性を取りながらUNOの援助を得て大会の殆どを運営した。これによる費用削減は1,000万円近くに上った。今回は初めてのためスタートでややもたついた感も有ったが大会が進むにつれて解決していった。今後はJTAでの運営で問題なく進むであろう。

4. テニスに関する公認指導員及び審判員の養成並びに資格認定

(1)国際審判員・レフェリーの養成事業の実施〔審判委員会〕

①有望新人の発掘と養成のため指導員の派遣

新人発掘と養成の出来る認定指導員に限られており、又認定員自身国内及び海外での審判・レフェリーの実務を要求されているため、派遣回数は限定されたが、審判・レフェリーへの関心を高めることができた。

日時：9月・10月・11月

場所：茨城・京都・須玉・全日本

参加者総数：9名

②ITF レベル I 及びプレレベル III スクールの開催

国際審判員の登竜門であるレベル I スクール及び国際公認審判員資格

(レベル III スクール：レフェリー・主審・チーフオブアンパイア)準備のためのプレレベル III スクールを開催した。講師：川廷尚弘

	レベルI	プレレベルIII
日時：	平成16年3月23-24日	平成16年3月21-22日
場所：	神奈川	大阪
参加者数：	19	5

③海外大会への国際審判員の派遣

グランドスラム大会始め、海外での日本人審判員の活躍が増えてきている。これは国際テニス連盟及びアジアテニス連盟の期待に添うものであり、今後アジアの審判制度のリーダーとして、日本の審判員の活躍が益々要求されることは明白である。審判委員会としては、それらの活動に対して、ほんの一部ではあるが交通費の補助を行った。

氏名	ポジション	大会名
川廷尚弘	レフェリー	Universiade Games・AIG JAPAN OPEN・パタヤ DAVIS CUP: INA vs. NZL UZB vs. HKG UZB vs. TRE FED CUP: GER vs. INA
	スーパーバイザー	WTA: タシケント・ゴールドコースト・ホバート ITF: クウェイト・長沙・深淵・岐阜・福岡・軽井沢 FISU: 大邱
岡村徳之	主審	US Open・上海WTA・タイATP・韓国ATP
大原泰次郎	主審・ライン	Australian Open・Universiade Games・ South Pacific・Games・Canberra W Classic

辻村美和	主審・ライン	Australian Open・Australian Jr. Universiade Games South Pacific Games・ Adidas Internation
大久保範子	主審・ライン	Universiade Games・Korea Futures・Busan ATP
近藤康幸	主審	Universiade Games
須山亜由美	主審	Universiade Games
松野えるだ	A レフェリー	Universiade Games

(2) 審判員・レフェリーの養成事業並びに審判講習会の実施〔審判委員会〕

全国都道府県協会に「審判活動と 2003 年のプラン調査表」のアンケートをお願いした。集計を基に、各協会からの要望・意見を検討し対策に当たった。

①C 級審判員認定会

認定員：岡村徳之・川廷尚弘・増田憲司・姫井義也・松野えるだ・田中信子・大久保範子（来年度候補員 2 名）

都道府県からの要望により認定会及び講習会を 20 回開催し、およそ 800 名の新規審判員を誕生させた。この中から審判員育成として国際大会の主審を経験してもらった。

都道府県名：北海道・岩手・茨城・栃木・神奈川・東京・滋賀・香川・福岡
群馬・埼玉・和歌山・新潟・大分・普及指導委員会・専門学校・
関東学生連盟

②B 級審判員認定会

日時：2 月 14-15 日

開催地：埼玉県

合格者：40 名

③A 級審判員審査会

本年度より認定会ではなく、年初に A 級候補者を選定し、年間を通じてその人格、資質を審査することにした。本年度は A 級合格該当者がなく、来年度に期待する。

④B 級レフェリー認定会

15 年度は実施なし。16 年度 6 月に埼玉県で実施の予定。

⑤学連・専門学校生の講習会

関東学連の講習会は例年 6 月に開催される。加盟大学のテニス部から最低 2 名の参加が義務付けられており、2 日間で約 300 名の受講者がある。毎年数名、主審・ラインで活躍している。この中から既に国際試合の主審を経験し、AIG・デ杯・フェドカップのラインズマンを務めている。また大会審判活動に非常に協力的な専門学校の生徒を対象に講習会を実施した。

(3) 諸外国の審判の実態把握ならびに審判員の待遇改善〔審判委員会〕

①川廷尚弘認定員が本年度から、ITF/ATP/WTA のゴールドレフェリーに任命され、更に、ITF 及び ATF の要職を兼ねていることから国際情勢に精通しているし、岡本徳之認定員はグランドスラム大会において、実務経験が豊富であるため、諸外国の審判の実態を正確に把握しており、他の委員会への協力も行っている。

②AIG JAPAN OPEN・全日本選手権大会は、地方の有資格者にも働いていただくことが望ましいが、遠隔地からの希望者が少ないのは、旅費・宿泊費が支給されないことも原因の一つと考えられる。大会における審判員の希望者が年々減少するという憂慮すべき実体である。各大会の経済状態を無視することはできないが、審判員に対する待遇改善は急務である。解決策を早急に関係各位と検討し、出来るところから改善を図る努力をするつもりである。

(4) 審判員・レフェリーの登録管理〔審判委員会〕

公認審判員・レフェリー更新登録者数

C 級公認審判員： 686 名

B級公認審判員： 500名
A級公認審判員： 3名
B級レフェリー： 328名

(5) 文部大臣認定事業公認指導者資格付与〔指導者委員会〕

公認指導者資格検定会を下記の通り開催した。

- ① B級コーチ：前期；大阪・2003/12/19～21 参加者：28名
後期；東京・2004/2/24～26 参加者：28名
- ② C級コーチ：前期；大阪・2004/1/7～10 参加者：38名
後期；東京・2004/2/23～26 参加者：38名
- ③ C級教師：前期；大阪・2004/1/7～10 参加者：16名
後期；東京・2004/2/18～22 参加者：16名
- ④ C級教師（専門学校）：東京・2004/2/18～22 参加者：69名
- ⑤ B・Cスポーツ指導員：青森、愛知、岐阜、京都、大阪、滋賀、愛媛の各県で認定事業を行った。

(6) コーチーズカンファレンスの開催〔普及委員会・指導者委員会〕

2004年3月14～15日に国立スポーツ科学センターにおいて、503名の参加者で開催した。

(7) 公認スポーツ指導者養成講習会の開催〔指導者委員会〕

- ① 各都道府県において普及員の養成講習会を行った。
- ② 女子テニス連盟を対象に普及員の養成講習会を行った。

(8) 公認スポーツ指導者講師全国研修会の開催〔指導者委員会〕

2004年2月14～15日に国立スポーツ科学センターにおいて、日本体育協会助成事業の研修会を開催した。参加者42名。

5. テニスの競技力向上

(1) デビスカップ強化合宿〔強化委員会〕

デビスカップ アジア／オセアニアゾーン・グループI 1回戦 インドネシア戦
強化合宿（平成16年1月26日～30日、東京都）

(2) フェドカップ強化合宿〔強化委員会〕

- ① フェドカップ アジア／オセアニア地区予選 グループI 強化合宿
（平成15年4月15日～26日、東京都）
- ② フェドカップ ワールドグループ プレーオフ スウェーデン戦 強化合宿
（平成15年7月14日～18日、岐阜県）

(3) ジュニア強化合宿〔ジュニア委員会〕

- ① U14女子強化合宿（平成15年6月12日～15日、静岡県）
コーチ：米沢そのえ／兼城 悦子
選手：加藤 茉弥／森田あゆみ／小田 彩織／伊藤絵美子／岩崎 舞
／長谷川梨紗／松重 貴子／重藤真知子
- ② U14女子強化合宿（平成15年6月25日～30日、千葉県）
コーチ：米沢そのえ
選手：森田あゆみ／加藤 茉弥／小田 彩織／伊藤絵美子
- ③ U12女子強化合宿（平成15年9月12日～15日、静岡県）
コーチ：米沢そのえ／溝口 美貴

- 選手：奈良くるみ／井上 雅 / 足立愉有子／石津 幸恵／栗林 千聡
 ／古賀 愛 / 田島 杏奈／山外 涼月
- ④U16・U14 女子強化合宿（平成 15 年 9 月 25 日～28 日、静岡県）
 コーチ：米沢そのえ／兼城 悦子
 選手：久見香奈恵／前澤かおる／瀬間友里加／瀬間詠里花／加藤 茉弥
 ／森田あゆみ／小田 彩織／伊藤絵美子
- ⑤U14 男子ミニキャンプ（平成 15 年 11 月 22 日～23 日、東京都）
 コーチ：右近 憲三
 選手：ロンギ正幸／井上 悠冨／綿貫 裕介／渡辺 輝史／松井 良賢
- ⑥日韓テニス トップジュニアキャンプ（平成 16 年 2 月 4 日～9 日）
 団 長：藤井 道雄 監督：笠原 康樹
 選手：井上 悠冨／綿貫 裕介／福田 健司／渡辺 輝史
 森本 美香／奈良くるみ／岩崎 舞 / 坂東 未来
- ⑦ワールドジュニア日本代表選手選考・強化合宿
 （平成 16 年 3 月 17 日～18 日、福岡県）
 コーチ：右近 憲三／山中 夏雄
 選手：井上 悠冨／綿貫 裕介／福田 健司／渡辺 輝史／松井 良賢
 奈良くるみ／岩崎 舞 / 坂東 未来／秋田 史帆／栗林 千聡

(4) ナショナルコーチによる国際大会視察・国内大会視察の実施〔ジュニア委員会〕

4 月のトヨタジュニアを始め、各主要大会を視察。

(5) 日韓テニス トップジュニアキャンプの開催〔ジュニア委員会〕

文部科学省の「スポーツ交流推進事業」の委嘱を受け、以下の通り事業を実施した。

- ・事業名 : 日韓テニス トップジュニアキャンプ
- ・実施期間 : 平成 16 年 2 月 4 日～9 日
- ・事業の内容: 世界で活躍することを目標としている両国のトップジュニア選手及びその指導者が交流試合などを通じて交流し、隣国同士の相互理解を深め競技力の向上に努めた。また同時期に行われる国際大会「東レ パン・パシフィックオープン」の試合観戦や練習見学、著名なレフェリーのセミナーなどを通じて「世界のテニス」を学んだ。

(6) 地域ジュニア選手強化講習会の実施〔競技者指導育成推進委員会と合同〕

①プロテニスプレーヤーによる世界のトッププレーヤーの技能の分析と実践講習会
 日本のトップ選手の技能（技術、体力、精神力）と世界のトップ選手の技能との差異を、世界を転戦するプロテニスプレーヤーの実体験をもとに分析し、その対応策を各地（全国 4 地域）の競技力指導者へ指導実習するとともに、各都道府県代表選手の実践練習会を実施した。（文部科学省委嘱事業）

1) 中国・四国

期 日：平成 15 年 11 月 7 日～9 日

会 場：広島県・びんご運動公園

講 師：プロ・・・辻野 隆三 ナショナルコーチ・・・田島 孝彦

2) 関東・北信越

期 日：平成 16 年 1 月 10 日～12 日

会 場：茨城県・科学万博記念公園テニスコート

講 師：プロ・・・金子 英樹 ナショナルコーチ・・・山本 育史

3) 東北

期 日：平成 16 年 1 月 23 日～25 日

会 場：岩手県・アリーナ・まつお

講 師：プロ・・・宮地弘太郎 ナショナルコーチ・・・堀内 昌一

4) 九州

期 日：平成 16 年 2 月 27 日～29 日

会 場：福岡県・東平尾公園博多の森テニス競技場室内コート

講 師：プロ・・・金子 英樹 ナショナルコーチ・・・坂本 真一

②地域ジュニア合宿（スポーツ振興くじ助成事業）

競技者育成プログラムに基づき、有望なジュニアの「発掘・育成・強化」を全国的に組織化していくことを目的とした合宿を行なった。コーチミーティングを多く取り入れて地域（地区）の実態を話し合い、今後の更なるプログラムの実施に効果ある対策を検討した。

1)九州

期 日：平成 15 年 10 月 11 日・12 日

会 場：福岡県・グローバルアリーナ

講 師：飯田 藍 / 米沢そのえ

2)中国

期 日：平成 15 年 10 月 18 日・19 日

会 場：広島県・びんご運動公園

講 師：横松 尚志 / 田島 孝彦

3)関東

期 日：平成 15 年 11 月 1 日・2 日

会 場：千葉県・アポロコーストテニスクラブ

講 師：橋爪 功 / 堀内 昌一

4)関西

期 日：平成 15 年 11 月 15 日・16 日

会 場：大阪府・大阪産業大学生駒キャンパステニスコート

講 師：飯田 藍 / 田村 伸也

5)東海

期 日：平成 15 年 12 月 27 日・28 日

会 場：静岡県・花川公園テニスコート

講 師：飯田 藍 / 横松 尚志 / 岩月 俊二

6)中国

期 日：平成 16 年 1 月 5 日～7 日

会 場：広島県・広島広域公園テニス場

講 師：山本 育史 / 田島 孝彦

7)北信越

期 日：平成 16 年 2 月 7 日・8 日

会 場：長野県・松本南部屋内運動場

講 師：橋爪 功 / 田村 伸也 / 岩月 俊二

8)四国

期 日：平成 16 年 2 月 21 日・22 日

会 場：愛媛県・愛媛県総合運動公園

講 師：梅林 薫 / 横松 尚志

9)東北

期 日：平成 16 年 2 月 28 日・29 日

会 場：岩手県・紫波町インドアテニスコート

講 師：梅林 薫 / 宮地弘太郎

10)北海道

期 日：平成 16 年 3 月 7 日・8 日

会 場：北海道・宮の森屋内競技場

講 師：広瀬 均 / 田村 伸也 / 岩月 俊二

11)東北

期 日：平成 16 年 3 月 13 日・14 日

会 場：宮城県・名取スポーツテニスコート

講師：横松 尚志／田島 孝彦

(7) 競技者育成プログラムの確立と実施〔競技者指導育成推進委員会〕

世界に通じるトップ選手育成と、次代に続くジュニア発掘の為に、「トップへの道Ⅲ」プログラム(ビデオ・マニュアル)をナショナルコーチの協力で作成、それに基づき、各地域でジュニアとジュニア指導者の合宿を行った。なお、上記のビデオやドリル集はコーチーズカンファレンスでも紹介するとともに活用した。

(8) 地域トップジュニア選手(14歳以下)と指導者との合宿の実施

〔競技者指導育成推進委員会〕

会場：北海道(札幌)・東北(岩手)・北信越(長野)・関東(千葉)・東海(静岡)・関西(大阪)・四国(高知)・中国(広島)・九州(福岡)

内容：一貫した指導理念を基に、地域でのトレセンシステムの推進を促す、「強化指導指針」に基づく中期・長期での発掘・育成を組織的に推進するために指導者のレベル向上を目的とした、JTA 委員とナショナルコーチと、地域ジュニア委員とのミーティングを行う。また、有望なジュニア発掘を都道府県で推進するため、指導者のネットワークを組織化する目的として地域・都道府県強化コーチの指名を促す、今年度の成果は9地域で組織的なジュニア活動が活発化しつつあるという実感を得たことである。

2008年に向けて今後は財政確保に取り組み、都道府県でのトレーニングセンターシステムの確立を計ることが最重要になる。

(9) 地域強化コーチ・ジュニアナショナルコーチ合同合宿と JTA 役員との合同会議の実施

〔競技者指導育成推進委員会〕

会長・専務理事・強化本部長・普及本部長・スポーツ科学委員長・強化委員長・ジュニア委員長・指導者委員長に出席いただき現場の声を伝えた。日本テニス協会の目指す強化の目的と方向性、各現場で活動されているコーチの視点を通して、今後の発掘・育成・強化をどのように推進していくことが重要か、JTA との連携についての問題点などを話し合った。

(10) ジュニア登録制度アンケート調査や JTA ジュニアランキングの設置に伴う研究の開始〔競技者指導育成推進委員会〕

「地域強化コーチ・ジュニアナショナルコーチ合同合宿」にて検討した、ジュニア登録制度ならびに JTA ジュニアランキングシステムの具体化を目指し、本件についての研究をジュニア委員会と共同で開始した。

(11) 特別指定合宿の開催〔競技者指導育成推進委員会〕

今年度は東北(岩手)・中国(広島)・九州(福岡)地域でトレーニングセンターシステム構想をもとにジュニア特別合宿を開催した。3地域ではジュニア活動の基盤作りが始まり、指導者のネットワークが確立する中、特に中国地域の活動は目覚しくモデル地区として推奨する。

(12) 普及指導本部主催の全国講師研修会への参加〔競技者指導育成推進委員会〕

この研修会の目的は各地域強化コーチが研修会に参加、指導者としての一貫した指導理念と、より指導知識を高めることを目的としたもの、また、指導員検定会の内容などを伝達、今後は各地域・都道府県で開催されるセミナーでは講師としての役割を担っていく為、資格条件は公認 C 級・B 級コーチの資格を有する者、または今後取得する者とした。

(13) JTA 強化指定選手および地域選抜ジュニア選手のスポーツ科学的サポート

〔スポーツ科学委員会〕

JTA 強化指定選手においては、JISS(国立スポーツ科学センター)および大阪市中央体育館健康体力相談室において、体力およびメンタルの分析そしてトレーニング指導を行った。また栄養調査を行い、その分析および栄養指導も行った。地域ジュニア選手に対しては、各地域での合宿時に、テニスフィールドテストを実施し、そして体力トレーニング指導も合わせて行った。また、2004年の1月10日～12日に、国立スポーツ科学センター（JISS）で開催されたトレーニング測定合宿においても、JTA 強化指定選手および地域選抜選手に対して体力・メンタル・栄養・バイオメカニクスの分析を行い、その結果から個人にフィードバックを行った。（toto 助成金対象事業）

(14) 日本ジュニアテニス選手の技能および戦術に関する研究〔スポーツ科学委員会〕

2003年度に開催された国内大会としてフェドカップ、全日本ジュニアテニス選手権大会、兵庫インターナショナル、ワールドスーパージュニアテニス選手権大会、全国小学生テニス選手権大会、AIG オープン、国際大会としてオレンジボール（アメリカ）等のゲーム・戦術分析を行い、年齢ごとにみた戦術（サーブ・レシーブからの攻撃）、コート上での動き、メンタル面およびコンディショニング面からの分析と評価を行った。（JISS 委託研究助成対象事業）

(15) トレーニングセンターシステムにおける地域スポーツ科学サポート体制の整備・確立〔スポーツ科学委員会〕

地域協会と連携して、地域トレーニングセンター設置に基づくスポーツ科学サポートの実施体制を確立することを目的として、各地域のスポーツ科学に関する施設・情報等の調査を行い、その実態を把握することができた。今後、さらに地域のスポーツ科学サポートを充実させていく上でも、地域のハード面およびソフト面の調査および情報の共有を積極的に行い、中央と地域とがスポーツ科学に関する情報をお互いに伝達できるシステムの開発をさらに推進していくことが重要であると認識できた。

（toto 助成金対象事業）

(16) 地域ジュニアテニス選手に対しての体力トレーニングに関する研究

〔スポーツ科学委員会〕

地域ジュニア選手を対象に、ジュニア合宿時を利用して、体力測定および体力トレーニング指導を行った。体力トレーニング指導については、指導者に対してその必要性およびトレーニング方法を徹底するために、冊子およびトレーニング試技用のCDを作成した。それと元に、各地域の指導者ともミーティングを行い、情報の伝達を行った。

（ヨネックス財団助成金対象事業）

(17) ITF コーチワークショップへの参加〔スポーツ科学委員会〕

2003年10月21日から26日の5日間に渡って、13th ITF Worldwide Coach Workshop が、ポルトガルのヴィラモウラの Dom Pedro golf & Forum Conference Center で開催され、スポーツ科学委員会から梅林 薫、佐藤陽治、須田和裕、道上静香の4委員と、強化委員会委員であり、JOC 在外海外研究員でもあるから植田実氏の5名が参加した。今回は一般研究発表のセッションもあり、佐藤氏（Conditioning and Training 分野）、須田氏（Technology 分野）、道上氏（Biomechanics 分野）の3演題の発表を行った。海外の研究者およびコーチ（指導者）との活発な意見交換もでき、有意義なワークショップであった。

6. テニスに関する競技規則及びアマチュア規程の制定並びにテニスランキングの作成

(1) JTP・JOP ランキングの作成・公表ならびに年間ランキングの作成・公表

①JTP・JOP ランキングは月例で作成し公表した。

②年間ランキングの作成・公表

1) 年間ランキングは基準に基づき、04年1月末に作成し公表した。

2) 現行ランキング作成基準が現実にそぐわないので、改訂案を作成し提出済み。

7. 日本テニス界を代表して、財団法人日本体育協会、財団法人日本オリンピック委員会、国際テニス連盟(略称 I. T. F.)及びアジアテニス連盟(略称 A. T. F.)に加盟すること

(1) 国際テニス連盟及びアジアテニス連盟公式会議の出席ならびに海外からの各種資料の収集と情報提供(国際会議へ派遣及び出席者)〔国際委員会〕

①国際テニス連盟(ITF)関係

- a. 総会：2003年9月9～12日 於 リオデジャネイロ
出席者：川廷栄一 矢沢猛
内容：実績、会計、行事その他報告と計画の提案、規約改正役員選出で川廷氏12期目再選されず理事退任
- b. 理事会：5月(パリ)6月(ロンドン)9月(ニューヨーク)
出席者：川廷栄一
- c. 委員会：川廷ジュニア委員長、オリンピック、普及委員会(11月よりオリンピック委員のみを継続)
川廷(尚) チャレンジャー、サテライトサーキット委員
(6月 ロンドン 9月 ニューヨーク会議出席)
松岡修造 コーチズコンミッション(11月より) 委員会活動に参加
- d. 事務局：川廷(尚) アジア担当トーナメントエグゼクティブとして従事
- e. ITF、ITN：矢沢猛 6月(ロンドン)

②アジアテニス連盟(ATF)関係

- a. 総会(2003年度)：2003年6月14～15日 於 バンコック
出席者：川廷栄一 松岡修造 川廷尚弘
内容：地域副会長、委員長報告
‘02 ‘03決算、収支予算承認、2004年度活動計画確認
役員選出 川廷8期目再選されず会長退任、松岡 理事に就任
- b. 総会(2004年度)：2004年3月11～14日 於 ドーハ
出席者：川廷栄一 川廷尚弘
内容：地域副会長、委員長報告 ‘03, ‘04年度決算、予算報告
‘03行事、大会報告 ‘04行事計画、日程承認
国際オフィシャル育成5ヵ年計画承認(川廷尚提案)
川廷名誉終身会長に推挙される
‘05総会をミャンマー協会が開催決定
- c. 全体会議：9月9～12日 於 リオデジャネイロ
出席者：川廷栄一 矢沢猛
- d. 理事会：6月14日 於 バンコック 9月9日
於 リオデジャネイロ 10月4日 於 タシュケント
出席者：川廷 松岡理事(タシュケントを除く)
- e. 委員会：松岡 プロフェッショナル、コーチング委員長 及び
川廷(尚) オフィシエイティング副委員長 として活動に参加
- f. 大会ディレクター会議：11月8日 於 パタヤ
出席者：畠中君代
内容：大会日程、運営について協議 川廷(尚)ATF側で参加

(2) 日本オリンピック委員会(JOC)関係会議へ派遣及び出席者〔国際委員会〕

- ① a. 盛田会長(評議員) 川廷栄一(理事、副会長に選出)
総会、評議員会、理事会に出席
川廷栄一(国際委員長) 渡辺康二(総務委員) 神和住純(選手強化本部)
松岡修造(アスリート、環境委員会委員) 土橋登志久(ユニバーシアード)
各委員が担当委員会に出席(川廷副会長は全委員会に陪席)
- b. 行事出席 中国スポーツ大臣会議(4月1日 於 東京 川廷)

東アジア競技大会打合せ(7月30日 於 マカオ 川廷)
中国全国都市大会(10月17～20日 於 長沙 川廷)
東アジア競技大会連盟総会(11月2日 於 マカオ 川廷)
ワールドマスターゲーム国際会議
(11月24～26日 於 大津 川廷)
中国オリンピック委員会 北京五輪組織委員会会議
(12月23～27日 於 北京 川廷)
日中韓米オリンピック委員会会議(1月19～21日
於 ホノルル 川廷)
世界オリンピック委員会総会(1月22～27日 於 アテネ 川廷)
北京五輪組織委員会総会(1月20日 於 北京 川廷)

②日本オリンピックズ協会(AJO)：松岡修造(理事)

(3)国際テニス団体関係会議へ出席及び出席者〔国際委員会〕

①ATP：有沢三治(理事)

②WTA：野地俊夫(理事)、川廷尚弘(WTAツアーディレクター)

(4)国際大会／行事への出席及び担当〔国際委員会〕

①国際テニス連盟(ITF)

a. 世界チャンピオン表彰式(5月2日 於 パリ 盛田会長、川廷、矢沢)

b. ワールドジュニアテニス世界大会(9月19～21日 於 ケルン 川廷)

c. ITN普及検討会議(1月27～28日 於 ロンドン 川廷)

d. グランドスラム4大会出席(盛田会長、川廷、矢沢)

②アジアテニス連盟(ATF)

a. ITF大会アジア／オセアニア予選各大会出席(川廷)

b. 臨時役員会議(11月20～21日 於 香港 川廷、川廷尚)

c. アジアインターシティベテラン(11月27～30日 於 チェンマイ 川廷)

③ユニバシアード(FISU)

a. 国際学生スポーツ連盟会議(5月29～30日 於 テグウ 川廷)

b. 第25回ユニバシアード競技大会(8月17～30日 於 テグウ)
競技委員長 川廷、スーパーバイザー 川廷(尚)、国際審判員、岡村徳之、
松野えるだ、大原 が運営に参加

④アフロアジア競技大会

第1大会(10月24日～11月1日 於 ハイドラバード 川廷)

⑤海外開催行事

WTAツアーディレクター研修会(1月20～21日 於 メルボルン 川廷尚)

⑥国内開催行事

a. JAPAN OPEN 国際車椅子選手権(5月13～14日 於 飯塚 川廷)
国際テニス連盟より大会評価のため視察

b. 世界軟式テニス選手権大会(11月4～5日 於 広島 川廷)
東アジア競技大会種目への検討視察

(5)来日海外役員への対応〔国際委員会〕

①豪州協会G ポラード会長

②ジンバブエ協会P チンゴカ会長

③カタールNOC役員3名(2006アジア大会組織委員会テニス担当)

④マカオNOC役員3名(2005東アジア大会組織委員会テニス担当)

(6)海外協会との交流及び協力〔国際委員会〕

①各国協会行事

a. マレーシア協会会長会談(3月11日 於 クアラルンプール 川廷)

- b. 上海テニス協会会議(5月16日 於 上海 川廷)
- c. 韓国ベテラン協会レセプション(5月28日 於 ソウル 川廷)
- d. スリランカ協会デ杯戦参加50周年(6月16日 於 コロンボ 川廷)

②協力

- a. スリランカ協会 大会運営、審判講習(8月15～18日/10月24～28日
於 コロンボ 川廷尚)
- b. ベトナム協会 大会運営、審判講習(11月10～12日
於 ホーチミン 川廷尚)
- c. ユナイテッドアラブエミレーツ協会 大会運営、審判講習
(2月23～25日 於 ドバイ 川廷尚)
- d. カタール協会 大会運営、審判講習(3月1～3日 於 ドハ 川廷尚)
- e. タイランド協会 大会運営、審判講習(3月17～20日
於 パタヤ 川廷尚)

(7)ATFカレンダーワークショップ等国際ワークショップの参加〔国際大会委員会〕

翌年の国際大会日程の最終調整である ATF 主催のワークショップへの参加
期 日：11月6日
場 所：タイ・バタヤ（WTA 女子大会開催会場）
参加者：畠中君代国際委員長、矢澤会長室長
内 容：アジア地域の2004年日程調整—日本の大会日程は全て認められる

(8)財団法人日本体育協会国体委員会への出席〔国体委員会〕

- ①期 日：平成15年4月25日（金）
場 所：岸記念体育会館
出席者：森清吉
内 容：夏・秋季大会開催の一本化について、その他
- ②期 日：平成15年6月20日（金）
場 所：岸記念体育会館
出席者：森清吉
内 容：第61回国民体育大会開催地（兵庫県）の決定について
第63回国民体育大会開催地（大分県）の内定について
第59回国民体育大会夏・秋季大会実施要項総則（案）について、その他
- ③期 日：平成15年7月28～29日（月～火）
場 所：新潟県長岡市・塩沢町
出席者：森清吉、杉澤雅敦副委員長
内 容：第64回国民体育大会（新潟県）の第1回正規視察
- ④期 日：平成15年11月26日（火）
場 所：岸記念体育会館
出席者：森清吉
内 容：国体改革2003対応プロジェクト
- ⑤期 日：平成16年1月13日（火）
場 所：岸記念体育会館
出席者：森清吉
内 容：国体改革2003対応プロジェクト
- ⑥期 日：平成16年2月12日（木）
場 所：岸記念体育会館
出席者：森清吉
内 容：国体改革2003対応プロジェクト
- ⑦期 日：平成16年2月16日（月）
場 所：岸記念体育会館
出席者：杉澤雅敦

内 容：国民体育大会改革 2003 の進捗状況について、その他

(9)財団法人日本体育協会の公式会議に出席〔指導者委員会〕

4月18日に東京・岸記念会館にて開催された日本体育協会の会議に出席した。

8. 年鑑その他の刊行物の発行

(1)「コートの友」の発刊・販売ならびにルールの周知徹底〔国内大会委員会〕

①「コートの友 04年版」の編集と出版。

1)04年3月1日に発行。2万部印刷。

2)04年3月1日～31日現在で14,645部販売済み。

②「コートの友 03年版」の拡販

(2)コートの友(テニスルール・ハンドブック)の改訂作業への協力〔審判委員会〕

「2004年度版コートの友」の改訂作業については、例年通り、審判・レフェリー関係の部分の改訂に協力した。

(3)JTA ニュースの編集および発行〔広報委員会〕

JTA NEWS をアニュアルレポートとして一回発行した。各役員、本部長、委員長などの事業計画、報告や前年度の収支決算などが報告されている。その内容はホームページにもアップされている。発行部数は11000部で都道府県協会及び関連団体に配布され、広報誌としての役割を果たしている。

(4)テニスプレーヤーズガイドの編集および発行〔広報委員会〕

マスコミ、メディア向けのみならずイベントの企画運営を行うスタッフ一般愛好者向けのガイドブックとして、1000部を発行した。

(5)プレーヤーズノートの改訂作業および出版〔スポーツ科学委員会〕

ジュニア選手に対してスポーツ医科学情報、測定結果や練習の記録等で日々のトレーニング・利用されているプレーヤーズノートの改訂作業を行った。数回の会議および内容の検討を行い、できるだけ選手の活用度の高いものとする事で意見が一致し、改訂版としては3000部を印刷した。(1200円/冊)ジュニアの大会および地域のジュニア合宿および指導者講習会等で販売し、その啓蒙活動を積極的に推進した。

9. テニスに関する用具及び施設の検定並びに公認

(1)テニスに関する用具の認定、公認〔総務委員会〕

当該期間中に以下、公認、推薦申請を処理した。

①公認：ボール6社

②推薦：ラケット、ウェア、コート、シューズ、ネット、ストリング、ラインテープ、スポーツコンタクト、スポーツサングラス、インソール、合計44社

10. テニス施設の管理運営

(1)スポーツ施設を守る会への活動支援(普及委員会)

①スポーツ施設を守る会の構成団体の一員となり、テニスクラブを代表とするスポーツ施設の減少に歯止めをかけるべく、他の関連団体との連携を図り、「民間スポーツ施設に係る税制改正要望」に関する請願署名運動を推進した。

②スポーツ施設を守る会として、平成15年9月20日、自由民主党政務調査会へ要望

書を提出した。また、10月7日に開催された自由民主党政務調査会「税制改正要望ヒアリング」に参加した。

11. その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

(1) JTA 表彰〔総務委員会〕

①表彰規程に基づき表彰者の選定を行った。

功労賞 19 名、企業賞 4 社、優秀団体賞 2 校、優秀選手賞 6 名、ジュニア大賞 1 名、優秀指導者賞 1 名、優秀審判賞 1 名、メディア賞 1 社に対しては、平成 15 年 5 月 22 日（木）岸記念体育会館スポーツマンクラブにおいて伝達式を行った。

②選手報奨金の授与

選手報奨金規定に基づき表彰者の選定を行った。

男子 2 名、女子 4 名に対しては、平成 15 年 11 月 17 日（月）全日本テニス選手権大会のレセプション会場の東京ベイ有明ワシントンホテル 3 階アイリスにて報奨金の授与を行ない、女子 1 名に対しては、平成 15 年 11 月 22 日（土）有明コロシアムセンターコートで開催の全日本テニス選手権大会女子シングルス表彰式後に特別表彰と共に授与を行った。

(2) 諸規程の新設改訂〔総務委員会〕

①新設：諸規程の新規制定を下記の通り、平成 15 年度中に合計 14 件行った。

- 1) 職務権限規程
- 2) 規程管理規程
- 3) 契約処理規程
- 4) 印章取扱規程
- 5) 慶弔・傷病・災害規程
- 6) 事務局規程
- 7) 事務局給与規程
- 8) 嘱託規程
- 9) 臨時職員規程
- 10) 退職金規程
- 11) 退職金支給規程
- 12) 職員慶弔・傷病・災害規程
- 13) 育児休業規程
- 14) 介護休業規程

②改定：諸規程の改定を下記の通り、平成 15 年度中に合計 5 件処理した。

- 1) 寄附行為細則
- 2) 旅費規程
- 3) 就業規則
- 4) 本部・専門委員会規程
- 5) 公認・推薦規程

(3) 各種イベントの後援申請等の審査〔総務委員会〕

加西市テニス協会から「加西アオノベテランオープンテニス」の推奨申請をはじめとして、年間 10 イベントの後援、公認を審査し常務理事・本部長会議に上程した。

(4) 全日本テニス選手権大会選手ミーティングの開催〔選手委員会〕

全日本テニス選手権大会開催中の平成 15 年 11 月 17 日（月）ウェルカムパーティ終了後、東京ベイ有明ワシントンホテルにて開催した。選手は男子 23 名・女子 11 名が出席し、盛田会長、渡邊専務理事の他、本井トーナメント本部長、右近選手委員長、松野レフェリーが列席した。

③の大会については、トレーナーをチーム体制で派遣した。更に、「全日本学生テニス選手権大会」「全日本学生室内テニス選手権大会」「全日本学生大学対抗戦」「全日本ベテランテニス選手権大会」にもトレーナーを派遣した。

6)SARS 対策を立案し、提案した。

平成15年8月以降に、国内で開催される国際大会でのSARS対策を立案し、大会毎にSARS対策室長として担当医師を派遣することとした。

②デ杯・フェドカップ 対戦国の日本大使館医務官への協力依頼

1)デ杯対インドネシア戦(平成16年2月6日～8日)(インドネシア ジャカルタ)については、在インドネシア日本国大使館の参事官・医務官 栗田 実 Dr に連絡のところ、デ杯戦の時は日本に帰国しているとのことであったが、日本チームに対するメディカルサポート体制をご手配頂くと共に、事前国内合宿(藤沢)に来訪され、インドネシアでの飲食の注意点や健康管理に関する講話をして頂くとともに、併せて、この合宿時に2名の委員によりメディカルチェックを実施した。また、大塚製薬からスポーツドリンク等のサポートをして頂いたが、栗田医務官の講話に合わせ、スポーツドリンク・サプリメントの効果的な活用につき専門担当者から解説して頂いた。

2)フェドカップ1回戦・対アルゼンチン戦(平成16年4月24日～25日)(アルゼンチン・ブエノスアイレス)につき、日本チームへのメディカルサポートに関し、在アルゼンチン日本国大使館 宮村医務官に依頼をした。

③全国規模のジュニア大会への派遣

1)ダンロップ全日本ジュニアテニス選手権大会(平成15年8月10日～16日)(大阪:靱テニスセンター)に、ドクター・トレーナーを派遣した。

2)大阪市長杯世界スーパージュニアテニス選手権大会(平成15年10月6日～12日)(大阪 靱テニスセンター)に、ドクター・トレーナーを派遣した。

3)第30回 全国中学生テニス選手権大会(平成15年8月18日～23日)(岐阜:長良川テニスプラザ)にドクターを派遣した。

4)日韓テニストップジュニアキャンプ(平成16年2月5日～7日)(神奈川:荏原湘南スポーツセンター他)にトレーナーを派遣した。

5)トヨタジュニアテニストーナメント2004(平成16年3月31日～4月3日)(名古屋:東山公園テニスセンター・瑞穂競技場)にトレーナーを派遣した。

6)ジャパンオープンジュニアテニス選手権大会2004(平成16年4月5日～11日)(名古屋:東山公園テニスセンター)へのトレーナー派遣を手配した。

なお、1)2)ドクターは、大阪医科大学、武田総合病院、大阪第2警察病院、高槻赤十字病院、大阪府立母子保健総合医療センター、洛西シミズ病院、のご協力を得て派遣した。また、2)のバックアップ病院として、大阪厚生年金病院に依頼した。3)のドクターは、京都大学医学部、愛生会病院、国立療養所長良病院、岐阜大学医学部、岐阜市民病院、関ヶ原病院、のご協力を得て派遣した。また、バックアップ病院として岐阜日赤病院に依頼した。

④講習会、セミナーへの講師派遣

1)指導者講習会及び専門科目講習会に講師を派遣した。(ドクター・トレーナー)

2)第30回全日本テニス大会埼玉大会時に開催された「第30回スポーツ予防医学研究会」において、委員長が「日本テニス協会における医事委員会の事業について」のテーマで講演を行い、協力を呼びかけた。

(7)テニス障害の対策〔医事委員会〕

①ナショナル選手に対するメディカルサポートの実施

デ杯対パキスタン戦から実施したデ杯選手のメディカルチェックのデータは専門のソフトにより管理し、デ杯対インドネシア戦のメディカルチェック時に担当委員にデータを送り、活用した。次いで、デ杯対インドネシア戦の合宿時に行うメディカルチェックにも活用すべく手配した。それぞれ、メディカルチェックの結果については、直ちに選手・トレーナー・監督に伝えアドバイスした。

②テニス・メディカルセミナーの開催

テニスの外傷・障害に関するスポーツ医学等の予防と対策につき「テニス・メディカルセミナー」を開催した。受講対象者は、スポーツドクター・トレーナー・選手・指導者・一般テニス愛好家等幅広い方々であった。

1)「第11回テニス・メディカルセミナー」平成15年7月26日(土)

会場：東京慈恵会医科大学・大学1号館6階講堂 講師 林 光俊 先生

テーマ：「スポーツ装具とアイシング」～サポーターの活用とケアがテニスライフを左右する～

参加者：110名

2)「第12回テニス・メディカルセミナー」平成15年10月18日(土)

会場：東京慈恵会医科大学・大学1号館3階講堂

講師：海野 孝先生、石井 源信先生、高妻 容一先生

テーマ：「テニスにおけるメンタル面の理論と実際」～テニスはメンタルだ～

参加者：158名

3)「第13回テニス・メディカルセミナー」平成16年3月27日(土)

会場：東京慈恵会医科大学・大学1号館3階講堂

講師：仁木 久照先生、笠松 宏樹先生

テーマ：「テニスと足の痛み」～テニスは足元から・足とシューズを考える～

参加者：170名

③テニスと視覚能力に関し、「スポーツビジョン」の具体的な研究を行った。

テニスプレイヤーのデータを収集しているが来年度には分析結果を報告する。

④熱中症予防策を実施した。

真夏に開催される次の大会にて、プログラムに警告文「真夏の試合に勝つためには“暑さ対策”が基本です。」を記載し日本体育協会作成の冊子「スポーツ活動中の熱中症予防対策ガイドブック」を配布した。

- ・全国小学生テニス大会(7月) 200部
- ・全日本学生テニス選手権大会(7月) 500部
- ・全日本ジュニアテニス選手権大会(8月) 700部
- ・全日本中学生テニス選手権大会(8月) 700部

また、全日本ジュニアテニス選手権大会において、アンケート調査を実施した。

なお、テニス雑誌「テニスジャーナル」9月号(8月5日発売)に記載された、熱中症に関する「熱中症これだけは知っておきたい対策」の記事に協力した。

⑤テニスによる、外傷(けが)・障害(こしょう)に関するアンケートの実施

医事委員・部会員・協力 Dr により、テニスによる外傷・障害に関し、全国的にアンケート調査を実施した。同時にテニスエルボーについても調査した。327名の方々のご協力頂いたが、集計結果については、JTA ホームページに掲載した。今後の委員会活動の参考にする。なお、このアンケートは、平成16年度においても継続的に実施する予定であるが、インターネットで回答を得、集計することとしている。

⑥「テニス指導教本」及び「プレイヤーズノート・プレイヤーズ編」の改訂にあたり、メディカル面につき、改訂箇所原稿及び障害予防と熱中症に関する新規原稿を提供した。

(8)トレーナー業務の整備〔医事委員会〕

- ①各大会ごとに準備、運営、反省を踏まえ業務の整備にあたった。
- ②日本体育協会公認アスレティックトレーナー養成講習会受講者を選考の上推薦した。

(9)地域メディカルサポート体制の確立〔医事委員会〕

- ①全国ドクター網の拡充
全国にテニスプレイヤーの診療にご協力頂けるドクターの増加を図り、年度末で58名のドクターを JTA ホームページに公開する事が出来た。
- ②「医事委員会 新委員・部員 推薦書」用紙を作成

地域メディカルサポートに新しくご参加頂く Dr に関する推薦書用紙を作成した。

③スポーツドクター全国会議の開催

(財)日本テニス協会推薦・日本体育協会公認スポーツドクターの全国会議を平成15年7月26日(土)に開催した。スポーツ医学に関する研修会と医事委員会業務に関する協力依頼、情報交換を行った。

④日本体育協会公認スポーツドクター養成講習会の新規受講者の推薦を行った。今年度の受講者は、2名である。また、認定者は1名であった。

(10)テニス障害の情報発信〔医事委員会〕

①JTA ホームページ経由、ナショナル選手等からの照会に対応した。

医学生・医学療法士からのテニス界における活動の可能性に関する照会に対応した。

②テニス雑誌5社にテニス・メディカルセミナーの情報をベースに、スポーツ医学の情報を提供すると共に、テニス・メディカルセミナーCD-ROM を、読者プレゼント用に提供した。

(11)テニス・メディカルセミナーのCD-ROM作成・頒布〔医事委員会〕

今年度開催された第11回テニス・メディカルセミナーのCD-ROMを作成し、セミナー会場や大会で設置されたJTAコーナーで頒布した。JTAホームページやJTAメロマガ・テニス雑誌にも告知を掲載し第12回分・13回分は作成作業中である。

(12)トレーナー育成事業〔医事委員会〕

カリキュラムなど実施要綱案の検討に入った。

平成16年度から養成講習会を開催するための準備を行っている。

(13)テニス資料館設立の準備〔テニス資料館準備室〕

①近い将来の「テニス資料館」設置を目的にテニスに関するあらゆる資料を収集する事で準備室の設置活動に入った。

②AIG ジャパンオープンテニス 2003 会期中の「日本テニスの写真展」の準備と開催。

9/29～10/5 入場者総数は1,796名であった。

③JTA 所蔵史資料の整理ならびに整頓を行った。

④史資料保管場所の確保と保管用棚等の設営の実施。

(14)フェド杯の支援活動〔プロモーション委員会〕

①4月21～26日有明コロシアム・テニスの森公園で開催されたフェド杯・アジアオセアニア予選に於いてインフォメーションカウンター設置による観客サービス・各国駐日大使他VIP対応・通訳ボランティアの運営、出場選手への観光ツアーサービスを実施。

②7月19～20日 岐阜メモリアルセンターで愛ドームにて開催されたワールドグループ入れ替え戦(対スウェーデン戦)に際し、日本チーム応援団結成支援活動を行なうと同時にメディアによる広報活動支援を行なう。

(15)全日本ジュニア選手権の支援活動〔プロモーション委員会〕

大会支援のスポンサー継続支援取り付けなどの活動を実施。

(16)テニスの日の支援活動〔プロモーション委員会〕

9月23日(祭)に有明テニスの森公園・コロシアムにて開催された「テニスの日」運営への全面協力。

(17)AIG Japan Open の支援活動〔プロモーション委員会〕

①インフォメーションカウンターの開設・運営、各種イベント開催など観客サービス向上を図る。

- ②東京都・神奈川県内に在る外国人が主に利用しているテニスクラブをプロモーション委員が個別訪問、マスコミ・メディア、有明のパナソニック大型ビジョンを活用するなどしてAIG Japan Openの広報・観客動員活動を実施。
- ③有明テニスの森公園・コロシアム（協会主管）での観客動員数が昨年比約4千人増の48,482名となった。→ 選手、メディア（新聞・雑誌・TV放送・ラジオ放送）、観客（テニスサポーター）、スポンサー対策実施の相乗効果が現れた。

(18) 全日本選手権大会の支援活動〔プロモーション委員会〕

- ①インフォメーションカウンターの開設・運営、各種イベント開催、マスコミ・メディアを活用した広報活動の実施による動員・観客サービスの充実化。
- ②大会メディアルーム運営への支援活動によりメディアとの好関係の拡大を図る。
- ③文部科学省が新設した「総合的な学習」への支援協力を実施。
- ④土・日の観客動員数が昨年比約3千人増の約28,000名となった。

(19) 東レPPOにおけるJTAコーナーの開設と運営〔プロモーション委員会〕

（2004年1月31日～2月8日予戦を含む）

- ①JTAグッズ・書籍（テニス指導教本、コートの友、メディカルセミナーCD-ROM、ITFコーチマニュアルなど）の販売。
- ②クラブJTA入会の勧誘活動・テニスメディカルセミナー案内活動等を実施。

(20) ホームクラブ制度の発足と運用〔プロモーション委員会〕

社団法人日本テニス事業協会、普及委員会、強化委員会と共同にて、ナショナルトレーニングセンター返却に伴う選手強化拠点の喪失を補填するものとして、テニス選手の為の「ホームクラブ制度」を一昨年発足させた。近藤大生プロなど11名の選手がこの制度を利用中にて今後の利用拡大を図っている。

(21) テニスサービス協会の具現化〔プロモーション委員会〕

盛田会長の掲げる「サービス精神」を常に具現化して行くことがテニス界の発展に繋がる事を改めて確認すると同時に昨年同様 スポンサー、観客（テニスサポーター）、テニス選手、テニス施設供給者の満足度を向上させる為の提言・活動に結びつけることにした。具体的な活動としては、

- ①テニスサポーターの満足度を高めるマスコミ・メディアとの交流活発化。
- ②スポンサーとの関係緊密化、満足度の向上。
- ③テニス選手支援対策。
- ④テニス関係団体、支援組織（TPC等）、インターネット事業者との関係緊密化。
- ⑤テニス施設供給者（東京都港湾局など）との関係強化。
- ⑥テニスボランティアの組織化。

(22) 有明テニスの森公園コートの屋内化の可能性の調査〔企画委員会〕

企画委員会では「有明テニスの森公園をアジアのテニスのメッカにする」という目標にそって各種国際大会、国内大会の誘致や公園利用者数の増大のため、同地区の屋内テニスコートの整備の可能性についての検討を行った。実際には施設の所有者である東京都港湾局との密接な協議のもとに、同地区内の屋内コートの設置場所の検討、建設費の算出、スクール事業等を通じての建設費の回収、それらの事業方式、推進方式の検討を行っている。2004年6月をめどにこれらの可能性についての中間報告を行う予定である。

(23) 国体テニス競技開催地への正規視察の実施〔国体委員会〕

第64回国民体育大会（平成21年新潟県開催）の正規視察を下記概要にて行った。

期 日：平成15年7月28日(月)～29日(木)

場 所：新潟県 長岡市、塩沢町

参加者：森清吉国体委員長、杉沢雅敦国体副委員長、新潟県、長岡市、塩沢町
内容：開催予定地のテニス施設（練習コートも含め）の視察を行うとともに、
宿泊施設、輸送関係についても調査を行い、審判員や運営員の養成につ
いてを依頼した。

(24) アマチュア選手の登録管理〔選手登録委員会〕

- ① アマチュア選手の登録者数については、平成15年7月から再三にわたり登録更新の督促を行ったりした結果、目標とした10,000名を突破することが出来た。剰余金についても、1,000万円以上を確保することが出来て、前年同様本協会の財源に寄与することが出来た。
- ② 新規登録者の登録方法等については、ベテラン本部新設計画と相俟って、本格的に外部委託を検討することになり、平成16年3月になって委託の候補会社より素案の提示を受けたので、新年度早急に関係部門と打ち合わせの上、決定したい。

(25) クラブ JTA 会員の登録管理および会員の増強〔クラブ JTA 推進委員会〕

クラブ JTA はジュニア育成および強化に係わる資金の確保のため広く会員を募集し、その会員から会費の形で広く浄財の提供をお願いする組織である。今年度は従来より要請されていた会費の収納方式の多様化（従来は講座引き落としのみであったが、口座への振込みも可能とした）と関東テニス協会、関西テニス協会を中心とする地域協会の多大なるご協力を得て会員数の拡大を図ってきた。その結果、2003年度において新たに228名の新規の入会があった。一方50名の退会者があり、結果2003年度末の会員数は770名で前年比30%の増加となった。

委員会の開催はクラブ JTA に係わる経費は最小に抑える（会費は実際のジュニア育成の現場に円でも多く使用されるべきである）考え方から年一回の開催とし2003年6月2日に開催した。2003年度のクラブ JTA 資金を用いたジュニア育成活動（財源は2002年度クラブ JTA 資金）は全仏ジュニアやウィンブルドンジュニアの遠征経費他20本近いプログラムの実行に役立てられている。また前年度に引き続き会員が在住する地域の協会への30%の還元を行った。

(26) ホームページのリニューアルと情報発信〔広報委員会〕

スポーツ振興くじからの助成を受け、JTA ホームページのリニューアルを行うことが出来た。主にトップページの改版を行い国内外のレポート、思い出に残るあの試合、ホットニュースなど読者の興味ある内容を充実させ、閲覧数の向上につながった。

(27) メールマガジンの発信〔広報委員会〕

インターネットによるメールマガジン「テニスファン」を継続的に発信し、またデ杯、フェド杯、全日本、ジャパンオープンなど主要大会では毎日速報を発信しテニスファンへのサービスを行った。

(28) メディアメールの発信〔広報委員会〕

事業計画にはなかったが、より効率の良いプレスや専門誌への情報発信として、インターネットを利用したメディアメールをスタートした。従来の記者発表や投げ込みに加え、より正確、敏速な情報発信が出来るようになった。

(29) プログラム、ポスター、チラシ等の企画、発行〔広報委員会〕

事業計画にはなかったが、フェド杯、全日本、ジャパンオープン等の主要大会のプログラム、ポスター、チラシ等の企画・発行を広報委員会主体の作業として扱い、将来の一貫した JTA ポリシーを作るようにスタートを切った。

(30) リアルタイムスコアボードシステム運用のサポート〔IT 企画委員会〕

- ① リアルタイムスコアボードシステムについては、フェドカップ・アジア/オセアニア

ゾーン GI+GII 予選、フェドカップ・ワールドグループプレーオフ・スウェーデン戦、AIG OPEN 2004、第 78 回全日本テニス選手大会の 4 大会で運用し、各大会ともインターネットでの情報提供を連携した。IT 企画委員会としては、リアルタイムスコアボード運用にあたり主管委員会をサポートした。

- ②リアルタイムスコアボードシステムの改善については、14 年度一次開発として「スコア入力」、「表示機能」を開発し、「ドロー作成」、「オーダーオブプレー作成」機能追加とともに運用可能大会数を増加させるための汎用化は 15 年度送りとなっていたが、本年度においても予算面で実施することができなかった。

(31) トーナメント改革の実施 (JTA 承認料の明文化) [国際大会委員会]

参加日本人選手にとってポイントが効果的に獲得でき、グランドスラムへ進めるように出来る大会の配置を検討。16 年度は ITF レベルの大会を男子 8 大会、女子 13 大会開催する運びとなった。またより良い大会開催のため、委員を大会に派遣したり、新設大会のサイトチェックを派遣し行った。(浜名湖、静岡、)

また、国際大会の JTA 承認料について「コートの子」での記載が明確にされていなかったため、委員会で整理、検討し、6 月、7 月の常務理事会に提案し、公認大会の JTA 承認料について、明文化した。

(32) 国際大会視察の実施 [国際大会委員会]

- ①4 月：デビスカップ・パキスタン戦
修造チャレンジジャパンオープンジュニア
フェドカップアジアオセアニア予選 GI+GII
- ②7 月：フェドカップワールドグループ入れ替え戦
- ③9 月：グランドスラム募金 JTA 男子フューチャーズ、JTA 女子サーキット

(33) 国際大会ディレクター会議の開催 [国際大会委員会]

- ①6 月 3 日：男子フューチャーズディレクター・女子サーキットディレクター会議
- ②6 月 17 日：2004 年カレンダー検討会議
- ③6 月 24 日：委員会と大会ディレクター合同会議
- ④8 月 7 日：カレンダー日程調整打合せ
- ⑤8 月 29 日：カレンダー日程調整打合せ
- ⑥年 2 月 5 日：2005 年日程検討打合せ

(34) ドーピング検査の実施 [ドーピングコントロール委員会]

- ①全日本テニス選手権大会におけるドーピング検査
- 実施期間：平成 15 年 11 月 19 日(水)の 1 日
- 場所：有明コロシアム(東京都江東区)
- 対象：男子選手 5 名、女子選手 5 名 の計 10 名
- 検査要員：検査員 7 名、助手 7 名 の計 14 名
- 検査結果：検査分析結果は、全員”異常なし”との判定を得た。
- 事業の経費：スポーツ振興くじ(TOTO)の助成を受け、予算内で充実した検査を実施することが出来た。
- 事業の成果：本大会におけるドーピング検査は 6 回目になり、選手達も協力的であり円滑に実施することが出来た。
- 対象選手 10 名の内、8 名が初めてドーピング検査受けることとなったので、それらの選手に対し、検査完了までの時間を活用し、アンチ・ドーピングについて個別に解説を行ないアンチ・ドーピング啓蒙の良い機会となった。また、ドーピング検査も 6 回目にもなると、選手・コーチ達の意識も変わり大会前から大会中も、服用中の薬に禁止薬物が含まれていないかとの問い合わせのケースも目立ってきた。全日本クラスの選手達にアンチ・ドーピングに関する認識、理解が高まっ

て来ていると思われる。

②全日本ジュニアテニス選手権大会におけるドーピング検査

実施期間 : 平成15年8月10日の1日

場所 : 靱テニスセンター(大阪市)

対象 : 男子選手3名、女子選手3名 の計6名

検査要員 : 検査員5名、助手5名 の計10名

検査結果 : 検査分析結果は、全員”異常なし”との判定を得た。

事業の経費 : スポーツ振興くじ(TOTO)の助成を受け、予算内で充実した検査を実施することが出来た。

事業の成果 : 今回の検査対象選手は、大会日程の関係で6名全員が16才以下の選手になったため、選手の精神的負担を少なくすべく、出来るだけ柔らかい対応を心がけた。

それにより、終始明るい雰囲気の中で検査を実施することが出来たが、検査完了までの時間を活用して、アンチ・ドーピングにつき諸資料を配付し、懇談形式で具体的に解説した。選手の年齢が低いこともあり、親の同伴が多かったので、親にもアンチ・ドーピングの知識を持って頂く良い機会となった。なお、配布した資料を持ち帰らせ、後日検査結果を知らせる文書にてもフォローした。これらの対応により、アンチ・ドーピングの啓蒙という面で大きな成果を挙げることが出来た。

③検査体制を整備するため、JADA(財)日本アンチ・ドーピング機構)のメディカルオフィサー、テクニカルオフィサー養成講習会に、当委員会委員の推薦と援助を行った。

<1>JADA ドーピング・コントロール・オフィサー養成講習会への受講推薦と受講完了者

平成15年度 第1回養成講習会

開催日:平成15年6月1日(日)

場 所:国立スポーツ科学センター 大研修室

受講者:菊池 哲郎、岡 知珠

平成15年度 第2回養成講習会

開催日:平成15年10月12日(日)

場 所:国立スポーツ科学センター 大研修室

受講者:諸川 玄

平成15年度 第3回養成講習会

開催日:平成15年12月14日(日)

場 所:国立オリンピック記念青少年センター センター棟4階

受講者:三谷 玄弥

<2>平成15年度 末現在 JADA 認定者

メディカルオフィサー:助川 卓行、別府 諸兄、及能 茂道、石井 庄次、
奥平 修三、計 5名

テクニカルオフィサー:服部 雅彦、宮城 操、高橋 和子、松村 佳永子、
岡 知珠 計5名

(35)サプリメント対応〔ドーピングコントロール委員会〕

①全日本テニス選手権大会におけるアンケート調査の実施

平成15年11月17日(月)~11月23日(日)、有明コロシアム及び有明テニスの森公園テニスコートで開催された全日本テニス選手権大会において、予選本戦出場選手約600名に対し、「食事とサプリメントについて」アンケート調査を実施した。しかし、残念ながら回収出来たのは、25枚にとどまり、サプリメントの使用状況を把握する資料にはならなかったが、全日本クラスの選手の実態を僅かではあるが垣間見る事が出来た。回収不良の要因は、大会時では、選手に精神的な余裕が無く、調査項目も多かった事も影響したように思われる。この反省点を十分に検

- 討し、平成16年度に選手委員会等のご協力を得て再度実施する予定である。
- ②サプリメントに関する資料や情報の収集は、予算をかけることが出来ないながらも、着実に蓄積している。

(36) アンチ・ドーピングの啓蒙〔ドーピングコントロール委員会〕

- ① JTA ホームページに、アンチ・ドーピングに関する啓蒙記事「アンチ・ドーピング活動について」「アンチ・ドーピング最近の話題」を掲載した。また、JADA 認定の禁止薬物が含まれていないスポーツドリンク等についての情報やアンチ・ドーピング使用可能薬リストなど最新情報を掲載した。
- ② 全日本テニス選手権大会のプログラムに「アンチ・ドーピング最近の話題」の記事を掲載した。
- ③ 「テニス指導教本」改訂版用に「アンチ・ドーピングについて」の原稿を提出した。
- ④ 平成16年2月28日(土) 大阪・靱テニスセンターにて行われた「スポーツ指導員講習会」における「ドーピングについての講義」につき、担当講師として奥平修三委員を派遣した。
- ⑤ ナショナル選手やコーチからの使用可能薬等の照会に対応した。
- ⑥ JOC からの「喘息に対して使用可能な薬剤」の取り扱い変更に伴う確認依頼により、JOP 上位の男女15名に対し照会をした。予めの検査が必要な選手は無く、JOC にその旨回答した。
- ⑦ JADA(日本アンチ・ドーピング機構)からトップアスリート20名に対する「アンチ・ドーピングに関する意識調査」の協力依頼があり、男女各10名計20名にJADA への回答を依頼した。
- ⑧ 世界アンチ・ドーピング規定が一部変更され、2004年4月1日から世界統一基準として適用されることになったので、平成16年3月27日(土)ドーピングコントロール委員会を開催し、変更点及び今後の取り扱いにつき協議した。この情報については、ドーピング判定委員会へも連絡し、委員への資料の配付をお願いすると共に、早急の対応を依頼した。なお、この件に関しては、「コートの子2004年版」に世界アンチ・ドーピング規定が統一基準としてスポーツ界と各国政府の合意を得て適用される旨掲載を依頼した。

(37) ドーピング検査陽性反応者発生時の対応

ドーピング判定委員会は、ドーピングコントロール委員会が実施するドーピング検査において、陽性反応が出た場合に活動するものであり、本年度も陽性反応者が発生しなかったため主立った活動はなかった。

(38) 危機管理対策の実施〔危機管理委員会〕

昨今の海外の紛争・テロ等の危険地域への選手の派遣及びサーズや鳥インフルエンザ等の感染症への対応、更に海外・国際の大会開催時に於ける災害等に対応する為に設置された危機管理委員会として正式に発足した最初の年であり、下記の通りの活動を行った。

- ① 危機管理マニュアルの作成から手がけ、原案を作成した。
- ② 緊急連絡網の作成をてがけ、日常的に海外に遠征している選手が多数いるため、海外派遣緊急連絡網を完成させた。また、感染症及び防災の為に緊急連絡網をあわせて作成した。
- ③ 感染症対策として、国際テニス連盟公認の男子の国際試合、サニックスオープンの開催に際し、サーズ感染地域からの選手の入国を許可するかどうかを医事委員会と相談し、最終的には地元行政の要請もあり、大会を中止した。
- ④ 民間クラブからジュニア選手のイスラエルの国際大会へ参加させたい旨の依頼があったが危険地域の為、参加を中止するよう強く勧告し、参加中止とさせた。

(39) JTA 各専門委員会活動

平成 15 年度事業計画に基づき、以下の委員会は専門委員会分掌事項に定められた業務を分担遂行した。

総務委員会、選手委員会、医事委員会、国際委員会、テニス資料館準備室、
広報委員会、プロモーション委員会、I T 企画委員会、企画委員会
国内大会委員会、ベテラン委員会、実業団委員会、国体委員会、選手登録委員会
審判委員会、国際大会委員会、ジャパンオープン委員会
普及委員会、指導者委員会、クラブ J T A 推進委員会、競技者指導育成推進委員会
強化委員会、ジュニア委員会、スポーツ科学委員会、
ドーピングコントロール委員会、ドーピング判定委員会、危機管理委員会

以上

財団法人日本テニス協会 平成15年度 事業報告書

自平成15年4月1日 至平成16年3月31日〔委員会別報告〕

総務委員会（委員長：橋口 健蔵）

1. テニスに関する用具の認定、公認

当該期間中に以下、公認、推薦申請を処理した。

- ①公認：ボール 6 社
- ②推薦：ラケット、ウェア、コート、シューズ、ネット、ストリング、ラインテープ、スポーツコンタクト、スポーツサングラス、インソール、合計 44 社

2. JTA 表彰

①表彰規程に基づき表彰者の選定を行った。

功労賞 19 名、企業賞 4 社、優秀団体賞 2 校、優秀選手賞 6 名、ジュニア大賞 1 名、優秀指導者賞 1 名、優秀審判賞 1 名、メディア賞 1 社に対しては、平成 15 年 5 月 22 日（木）岸記念体育会館スポーツマンクラブにおいて伝達式を行った。

②選手報奨金の授与

選手報奨金規定に基づき表彰者の選定を行った。

男子 2 名、女子 4 名に対しては、平成 15 年 11 月 17 日（月）全日本テニス選手権大会のレセプション会場の東京ベイ有明ワシントンホテル 3 階アイリスにて報奨金の授与を行ない、女子 1 名に対しては、平成 15 年 11 月 22 日（土）有明コロシウムセンターコートで開催の全日本テニス選手権大会女子シングルス表彰式後に特別表彰と共に授与を行った。

3. 諸規程の新設・改定

①新設：諸規程の新規制定を下記の通り、平成 15 年度中に合計 14 件行った。

- 1) 職務権限規程
- 2) 規程管理規程
- 3) 契約処理規程
- 4) 印章取扱規程
- 5) 慶弔・傷病・災害規程
- 6) 事務局規程
- 7) 事務局給与規程
- 8) 嘱託規程
- 9) 臨時職員規程
- 10) 退職金規程
- 11) 退職金支給規程
- 12) 職員慶弔・傷病・災害規程
- 13) 育児休業規程
- 14) 介護休業規程

②改定：諸規程の改定を下記の通り、平成 15 年度中に合計 5 件処理した。

- 1) 寄附行為細則
- 2) 旅費規程
- 3) 就業規則
- 4) 本部・専門委員会規程
- 5) 公認・推薦規程

4. 各種イベント後援申請等の審査

加西市テニス協会から「加西アオノベテランオープンテニス」の推奨申請をはじめとして、年間 10 イベントの後援、公認を審査し常務理事・本部長会議に上程した。

選手委員会（委員長：右近 憲三）

1. 全日本テニス選手権大会キッズジュニアクリニックの開催

事業内容：全日本テニス選手権大会開催中の平成 15 年 11 月 23 日(日)、有明コロシアム・有明テニスの森公園テニスコートを使用して開催した。昨年に引続き NTT ドコモ社会環境室ならびにテニス部の協力を頂き、用具については S R I スポーツ(株)、ダイワ精工(株)、ヨネックス(株)、ブリヂストンスポーツ(株)、アメアスポーツジャパン(株)、ミズノ(株)、(株)ゴーセンの各社のご協力を頂いた。

今回は原点に戻り 1 日のみの開催としたが、例年に比べ申込者数が多くコート数の不足から一部抽選としたほどで、参加者は 124 名であった。内訳は、A (5 歳～未就学児／未経験者) 24 名、B (小学生／未経験者) 25 名、C (小学生／楽しむ程度経験者) 56 名、D (小学生／試合経験者) 19 名であり、JTA ホームページや JTA メルマガによって知ったという参加者が多かった。

2. 全日本テニス選手権大会選手ミーティングの開催

事業内容：全日本テニス選手権大会開催中の平成 15 年 11 月 17 日(月)ウエルカムパーティー終了後、東京ベイ有明ワシントンホテルにて開催した。

選手は男子 23 名・女子 11 名が出席し、盛田会長、渡邊専務理事の他、本井トーナメント本部長、右近選手委員長、松野レフェリーが列席した。

- ①全日本選手権大会日程の再検討
- ②ダブルスプレイヤーの優遇 (BYE をつける、シードを増やす等) 要望
- ③外国人選手受け入れ問題について
- ④日本リーグプロ増員について
- ⑤ナショナルコート設置の要望

等、活発な意見や質問が多く飛び出し、短時間ではあったが選手とのコミュニケーションを図る場となった。普段滅多に聞けない選手の考えを聞くことのできる貴重な機会であった。

3. プロフェッショナル選手の登録管理

- ①プロフェッショナル登録レベル分け、登録証の発行、新規プロフェッショナルの承認
平成 15 年度プロフェッショナル登録者…200 名 (平成 16 年 3 月 31 日付登録料納入者) うち、新規登録者…50 名

平成 15 年度プロフェッショナル登録料	10,000 円 × 20 名 =	200,000 円
	5,000 円 × 180 名 =	900,000 円
	<合計> 200 名	1,110,000 円

レベル	I	I T P	II	II T P	III	III T P	IV	合計
男子	17	25	8	18	16	19	37	140
女子	16	26	2	7	1	5	3	60
合計	33	51	10	25	17	24	40	200

- ②アマチュア復帰申請に対する実績審査、承認
平成 15 年度アマチュア復帰者…1 名

医事委員会 (委員長：別府 諸兄)

1. ドクター・トレーナーの派遣

- (1)国際大会・全国大会への派遣

- ①デ杯対パキスタン戦(平成 1 5 年 4 月 4 日～6 日)(愛知 豊田市体育館)については、3 月 2 4 日～2 8 日の第一次合宿において、メディカルチェックを実施した。また、第 2 次合宿及び試合当日に 2 名のドクター及びトレーナーを派遣すると共に、トヨタ記念病院へ救急対応の依頼をした。
- ②フェドカップ 2 0 0 3 ・アジア/オセアニア地域予選(平成 1 5 年 4 月 2 1 日～2 6 日)(東京 有明テニスの森公園コート)へドクター及びトレーナーを派遣した。次いで、対スウェーデン ワールドグループ・プレーオフ戦(7 月 1 9 日～2 0 日)(岐阜メモリアルホール デ愛ドーム)にオフィシャルドクター及びトレーナーを派遣した。また、大塚製薬に依頼し、スポーツドリンク等のサポートをして頂いた。
- ③「AIG OPEN」 「全日本テニス選手権大会」 「全国レディーステニス全国決勝大会」

「東レ PPO」各大会へトーナメントドクター及びトレーナーを派遣した。

また、「AIG OPEN」「全日本テニス選手権大会」「東レ PPO」の3大会のバックアップ病院として、東京慈恵会医科大学付属病院に依頼した。

④デ杯対インド戦(平成16年4月9日～11日)(大阪 靱テニスセンター)につき、事前合宿時のメディカルチェック・日本チームのオフィシャルチームドクター・会場ドクター・トレーナーの派遣・バックアップ病院への依頼等の手配を行った。

⑤フェドカップ第1回戦対アルゼンチン戦(平成16年4月12日～23日・合宿4月24日～25日・対戦)(アルゼンチン ブエノスアイレス)のチームオフィシャルトレーナーの派遣手配をした。

なお、①～③のドクターは、医事委員会委員・部会員その他、聖マリアンナ医科大学、東京医科歯科大学、日本大学医学部、昭和大学医学部藤が丘病院、東京慈恵会医科大学、北里大学医学部、東海大学医学部、茨城医療大学、群馬大学医学部、横浜市大医学部、杏林大学医学部、京都大学医学部、岐阜大学医学部、大阪大学医学部、各医局のご協力を頂き、ローテーション体制で派遣した。

また、①②④⑤については、医事委員会・トレーナー部会からトレーナーを事前合宿より派遣し、③の大会については、トレーナーをチーム体制で派遣した。更に、「全日本学生テニス選手権大会」「全日本学生室内テニス選手権大会」「全日本学生大学対抗戦」「全日本ベテランテニス選手権大会」にもトレーナーを派遣した。

⑥SARS 対策を立案し、提案した。

平成15年8月以降に、国内で開催される国際大会での SARS 対策を立案し、大会毎に SARS 対策室長として担当医師を派遣することとした。

(2) デ杯・フェドカップ 対戦国の日本大使館医務官への協力依頼

①デ杯対インドネシア戦(平成16年2月6日～8日)(インドネシア・ジャカルタ)については、在インドネシア日本国大使館の参事官・医務官 栗田実 Dr に連絡のところ、デ杯戦の時は日本に帰国しているとのことであったが、日本チームに対するメディカルサポート体制をご手配頂くと共に、事前国内合宿(藤沢)に来訪され、インドネシアでの飲食の注意点や健康管理に関する講話をして頂くとともに、併せて、この合宿時に2名の委員によりメディカルチェックを実施した。

また、大塚製薬からスポーツドリンク等のサポートをして頂いたが、栗田医務官の講話に合わせ、スポーツドリンク・サプリメントの効果的な活用につき専門担当者から解説して頂いた。

②フェドカップ1回戦・対アルゼンチン戦(平成16年4月24日～25日)(アルゼンチン ブエノスアイレス)につき、日本チームへのメディカルサポートに関し、在アルゼンチン日本国大使館 宮村医務官に依頼をした。

(3) 全国規模のジュニア大会への派遣

①ダンロップ全日本ジュニアテニス選手権大会(平成15年8月10日～16日)(大阪：靱テニスセンター)に、ドクター・トレーナーを派遣した。

②大阪市長杯世界スーパージュニアテニス選手権大会(平成15年10月6日～12日)(大阪 靱テニスセンター)に、ドクター・トレーナーを派遣した。

③第30回 全国中学生テニス選手権大会(平成15年8月18日～23日)(岐阜：長良川テニスプラザ)にドクターを派遣した。

④日韓テニストップジュニアキャンプ(平成16年2月5日～7日)(神奈川：荏原湘南スポーツセンター他)にトレーナーを派遣した。

⑤トヨタジュニアテニストーナメント2004(平成16年3月31日～4月3日)(名古屋：東山公園テニスセンター・瑞穂競技場)にトレーナーを派遣した。

⑥ジャパンオープンジュニアテニス選手権大会2004(平成16年4月5日～11日)(名古屋：東山公園テニスセンター)へのトレーナー派遣を手配した。

なお、①②のドクターは、大阪医科大学、武田総合病院、大阪第2警察病院、高槻赤十字病院、大阪府立母子保健総合医療センター、洛西シミズ病院、のご協力を得て派遣した。また、②のバックアップ病院として、大阪厚生年金病院に依頼した。

③のドクターは、京都大学医学部、愛生会病院、国立療養所長良病院、岐阜大学医学

部、岐阜市民病院、関ヶ原病院、のご協力を得て派遣した。また、バックアップ病院として岐阜日赤病院に依頼した。

(4) 講習会、セミナーへの講師派遣

- ① 指導者講習会及び専門科目講習会に講師を派遣した。(ドクター・トレーナー)
- ② 第30回全日本テニス大会埼玉大会時に開催された「第30回スポーツ予防医学研究会」において、委員長が「日本テニス協会における医事委員会の事業について」のテーマで講演を行い、協力を呼びかけた。

2. テニス障害の対策

(1) ナショナル選手に対するメディカルサポートの実施

デ杯対パキスタン戦から実施したデ杯選手のメディカルチェックのデータは専門のソフトにより管理し、デ杯対インドネシア戦のメディカルチェック時に担当委員にデータを送り、活用した。次いで、デ杯対インド戦の合宿時に行うメディカルチェックにも活用すべく手配した。

それぞれ、メディカルチェックの結果については、直ちに選手・トレーナー・監督に伝えアドバイスした。

(2) テニス・メディカルセミナーの開催

テニスの外傷・障害に関するスポーツ医学等の予防と対策につき「テニス・メディカルセミナー」を開催した。

受講対象者は、スポーツドクター・トレーナー・選手・指導者・一般テニス愛好家等幅広い方々であった。

- ① 「第11回テニス・メディカルセミナー」 平成15年7月26日(土)
会場 東京慈恵会医科大学・大学1号館6階講堂 講師 林 光俊 先生
テーマ「スポーツ装具とアイシング」～サポーターの活用とケアがテニスライフを左右する～
参加者 110名
- ② 「第12回テニス・メディカルセミナー」 平成15年10月18日(土)
会場 東京慈恵会医科大学・大学1号館3階講堂
講師 海野 孝先生 石井 源信先生 高妻 容一先生
テーマ「テニスにおけるメンタル面の理論と実際」～テニスはメンタルだ～
参加者 158名
- ③ 「第13回テニス・メディカルセミナー」 平成16年3月27日(土)
会場 東京慈恵会医科大学・大学1号館3階講堂
講師 仁木 久照先生 笠松 宏樹先生
テーマ「テニスと足の痛み」～テニスは足元から・足とシューズを考える～
参加者 170名

(3) テニスと視覚能力に関し、「スポーツビジョン」の具体的な研究を行った。

テニスプレーヤーのデータを収集しているが来年度には分析結果を報告する。

(4) 熱中症予防策を実施した。

真夏に開催される次の大会にて、プログラムに警告文「真夏の試合に勝つためには“暑さ対策”が基本です。」を記載し日本体育協会作成の冊子「スポーツ活動中の熱中症予防対策ガイドブック」を配布した。

- ・全国小学生テニス大会(7月) 200部
- ・全日本学生テニス選手権大会(7月) 500部
- ・全日本ジュニアテニス選手権大会(8月) 700部
- ・全日本中学生テニス選手権大会(8月) 700部

また、全日本ジュニアテニス選手権大会において、アンケート調査を実施した。

なお、テニス雑誌「テニスジャーナル」9月号(8月5日発売)に記載された、熱中症に関する「熱中症これだけは知っておきたい対策」の記事に協力した。

(5) テニスによる、外傷(けが)・障害(こしょう)に関するアンケートの実施

医事委員・部会員・協力 Dr により、テニスによる外傷・障害に関し、全国的にアンケート調査を実施した。同時にテニスエルボーについても調査した。327名の方々の

ご協力頂いたが、集計結果については、JTA ホームページに掲載した。今後の委員会活動の参考にする。なお、このアンケートは、平成16年度においても継続的に実施する予定であるが、インターネットで回答を得、集計することとしている。

- (6)「テニス指導教本」及び「プレーヤーズノート・プレーヤーズ編」の改訂にあたり、メディカル面につき、改訂箇所原稿及び障害予防と熱中症に関する新規原稿を提供した。

3. トレーナー業務の整備

- (1)各大会ごとに準備、運営、反省を踏まえ業務の整備にあたった。
(2)日本体育協会公認アスレティックトレーナー養成講習会受講者を選考の上推薦した。

4. 地域メディカルサポート体制の確立

- (1)全国ドクター網の拡充
全国にテニスプレーヤーの診療にご協力頂けるドクターの増加を図り、年度末で58名のドクターをJTA ホームページに公開する事が出来た。
(2)「医事委員会 新委員・部員 推薦書」用紙を作成
地域メディカルサポートに新しくご参加頂く Dr に関する推薦書用紙を作成した。
(3)スポーツドクター全国会議の開催
(財)日本テニス協会推薦・日本体育協会公認スポーツドクターの全国会議を平成15年7月26日(土)に開催した。スポーツ医学に関する研修会と医事委員会業務に関する協力依頼、情報交換を行った。
(4)日本体育協会公認スポーツドクター養成講習会の新規受講者の推薦を行った。
今年度の受講者は、2名である。また、認定者は1名であった。

5. テニス障害の情報発信

- (1)JTA ホームページ経由、ナショナル選手等からの照会に対応した。
医学生・医学療法士からのテニス界における活動の可能性に関する照会に対応した。
(2)テニス雑誌5社にテニス・メディカルセミナーの情報をベースに、スポーツ医学の情報を提供すると共に、テニス・メディカルセミナーCD-ROM を、読者プレゼント用に提供した。

6. テニス・メディカルセミナーのCD-ROM作成 頒布

今年度開催された第11回テニス・メディカルセミナーのCD-ROMを作成し、セミナー会場や大会で設置されたJTA コーナーで頒布した。
JTA ホームページやJTA メルマガ・テニス雑誌にも告知を掲載した。
第12回分及び第13回分は作成作業中である。

7. トレーナー育成事業

カリキュラムなど実施要綱案の検討に入った。
平成16年度から養成講習会を開催するための準備を行っている。

国際委員会 (委員長：内山 勝)

1. 国際テニス連盟及びアジアテニス連盟公式会議の出席ならびに海外からの各種資料の収集と情報提供

- (1)国際会議へ派遣及び出席者
①国際テニス連盟(ITF)関係
a. 総会：2003年9月9～12日 於 リオデジャネイロ
出席者：川廷栄一 矢沢猛
内容：実績、会計、行事その他報告と計画の提案、規約改正役員選出で川廷氏12期目再選されず理事退任
b. 理事会：5月(パリ)6月(ロンドン)9月(ニューヨーク)
出席者：川廷栄一
c. 委員会：川廷ジュニア委員長、オリンピック、普及委員会(11月よりオリンピック委員のみを継続)
川廷(尚) チャレンジャー、サテライトサーキット委員

(6月 ロンドン 9月 ニューヨーク会議出席)

松岡修造 コーチズコンミッション(11月より) 委員会活動に参加

d. 事務局：川廷(尚) アジア担当トーナメントエクゼクティブとして従事

e. ITF、ITN：矢沢猛 6月(ロンドン)

②アジアテニス連盟(ATF)関係

a. 総会(2003年度)：2003年6月14～15日 於 バンコック

出席者：川廷栄一 松岡修造 川廷尚弘

内容：地域副会長、委員長報告

‘02 ‘03決算、収支予算承認、2004年度活動計画確認

役員選出 川廷8期目再選されず会長退任、松岡 理事に就任

b. 総会(2004年度)：2004年3月11～14日 於 ドーハ

出席者：川廷栄一 川廷尚弘

内容：地域副会長、委員長報告 ‘03, ‘04年度決算、予算報告

‘03行事、大会報告 ‘04行事計画、日程承認

国際オフィシャル育成5ヵ年計画承認(川廷尚提案)

川廷名誉終身会長に推挙される

‘05総会をミャンマー協会が開催決定

c. 全体会議：9月9～12日 於 リオデジャネイロ

出席者：川廷栄一 矢沢猛

d. 理事会：6月14日 於 バンコック 9月9日

於 リオデジャネイロ 10月4日 於 タシュケント

出席者：川廷 松岡理事(タシュケントを除く)

e. 委員会：松岡 プロフェッショナル、コーチング委員長 及び

川廷(尚) オフィシエーティング副委員長 として活動に参加

f. 大会ディレクター会議：11月8日 於 パタヤ

出席者：畠中君代

内容：大会日程、運営について協議 川廷(尚)ATF側で参加

(2)日本オリンピック委員会(JOC)関係

① a. 盛田会長(評議員) 川廷栄一(理事、副会長に選出)

総会、評議員会、理事会に出席

川廷栄一(国際委員長) 渡辺康二(総務委員) 神和住純(選手強化本部)

松岡修造(アスリート、環境委員会委員) 土橋登志久(ユニバーシアード)

各委員が担当委員会に出席(川廷副会長は全委員会に陪席)

b. 行事出席 中国スポーツ大臣会議(4月1日 於 東京 川廷)

東アジア競技大会打合せ(7月30日 於 マカオ 川廷)

中国全国都市大会(10月17～20日 於 長沙 川廷)

東アジア競技大会連盟総会(11月2日 於 マカオ 川廷)

ワールドマスターゲーム国際会議(11月24～26日 於 天津 川廷)

中国オリンピック委員会 北京五輪組織委員会会議

(12月23～27日 於 北京 川廷)

日中韓米オリンピック委員会会議(1月19～21日

於 ホルル 川廷)

世界オリンピック委員会総会(1月22～27日 於 アテネ 川廷)

北京五輪組織委員会総会(1月20日 於 北京 川廷)

②日本オリンピック協会(AJO)：松岡修造(理事)

(3)国際テニス団体

①ATP：有沢三治(理事)

②WTA：野地俊夫(理事)、川廷尚弘(WTAツアーディレクター)

(4)国際大会／行事への出席及び担当

①国際テニス連盟(ITF)

a. 世界チャンピオン表彰式(5月2日 於 パリ 盛田会長、川廷、矢沢)

- b. ワールドジュニアテニス世界大会(9月19～21日 於 ケル 川廷)
- c. ITN普及検討会議(1月27～28日 於 ロンドン 川廷)
- d. グランドスラム4大会出席(盛田会長、川廷、矢沢)
- ②アジアテニス連盟(ATF)
 - a. ITF大会アジア/オセアニア予選各大会出席(川廷)
 - b. 臨時役員会議(11月20～21日 於 香港 川廷、川廷尚)
 - c. アジアインターシティベテラン(11月27～30日 於 チェンマイ 川廷)
- ③ユニバシアード(FISU)
 - a. 国際学生スポーツ連盟会議(5月29～30日 於 テグウ 川廷)
 - b. 第25回ユニバシアード競技大会(8月17～30日 於 テグウ
競技委員長 川廷、スーパーバイザー 川廷(尚)、国際審判員、岡村徳之、
松野えるだ、大原 が運営に参加)
- ④アフロアジア競技大会
 - 第1大会(10月24日～11月1日 於 ハトラハート 川廷)
- ⑤海外開催行事
 - WTAツアーディレクター研修会(1月20～21日 於 メルボルン 川廷尚)
- ⑥国内開催行事
 - a. JAPAN OPEN 国際車椅子選手権(5月13～14日 於 飯塚 川廷)
国際テニス連盟より大会評価のため視察
 - b. 世界軟式テニス選手権大会(11月4～5日 於 広島 川廷)
東アジア競技大会種目への検討視察
- (5)来日海外役員への対応
 - a. 豪州協会G ポラード会長
 - b. ジンバブエ協会P チンゴカ会長
 - c. カタールNOC役員3名(2006アジア大会組織委員会テニス担当)
 - d. マカオNOC役員3名(2005東アジア大会組織委員会テニス担当)
- (6)海外協会との交流及び協力
 - ①各国協会行事
 - a. マレーシア協会会長会談(3月11日 於 クアラルンプール 川廷)
 - b. 上海テニス協会会議(5月16日 於 上海 川廷)
 - c. 韓国ベテラン協会レセプション(5月28日 於 ソウル 川廷)
 - d. スリランカ協会デ杯戦参加50周年(6月16日 於 コロンボ 川廷)
 - ②協力
 - a. スリランカ協会 大会運営、審判講習(8月15～18日/10月24～28日
於 コロンボ 川廷尚)
 - b. ベトナム協会 大会運営、審判講習(11月10～12日 於 ホーチミン 川廷尚)
 - c. ユナイテッドアラブエミレーツ協会 大会運営、審判講習
(2月23～25日 於 ドバイ 川廷尚)
 - d. カタール協会 大会運営、審判講習(3月1～3日 於 ドハ 川廷尚)
 - e. タイランド協会 大会運営、審判講習(3月17～20日 於 バンコク 川廷尚)

テニス資料館準備室(準備室:宮城 黎子)

1. 「テニス資料館」設立の準備

- ①近い将来の「テニス資料館」設置を目的にテニスに関するあらゆる資料を収集する事で準備室の設置活動に入った。
- ②AIG ジャパンオープンテニス2003会期中の「日本テニスの写真展」の準備と開催。
9/29～10/5 入場者総数は1,796名であった。
- ③JTA所蔵史資料の整理ならびに整頓を行った。
- ④史資料保管場所の確保と保管用棚等の設営の実施。

広報委員会（委員長：矢澤 猛）

1. ホームページのリニューアルと情報発信

スポーツ振興くじからの助成を受け、JTA ホームページのリニューアルを行うことが出来た。主にトップページの改版を行い国内外のレポート、思い出に残るあの試合、ホットニュースなど読者の興味ある内容を充実させ、閲覧数の向上につながった。

2. メールマガジンの発信

インターネットによるメールマガジン「テニスファン」を継続的に発信し、またデ杯、フェド杯、全日本、ジャパンオープンなど主要大会では毎日速報を発信しテニスファンへのサービスを行った。

3. メディアメールの発信【広報委員会】

事業計画にはなかったが、より効率の良いプレスや専門誌への情報発信として、インターネットを利用したメディアメールをスタートした。従来の記者発表や投げ込みに加え、より正確、敏速な情報発信が出来るようになった。

4. JTA NEWS の発行【広報委員会】

JTA NEWS をアニュアルレポートとして一回発行した。各役員、本部長、委員長などの事業計画、報告や前年度の収支決算などが報告されている。その内容はホームページにもアップされている。発行部数は 11000 部で都道府県協会及び関連団体に配布され、広報誌としての役割を果たしている。

5. テニスプレーヤーズガイドの発行【広報委員会】

マスコミ、メディア向けのみならずイベントの企画運営を行うスタッフ一般愛好者向けのガイドブックとして、1000 部を発行した。

6. プログラム、ポスター、チラシ等の企画、発行【広報委員会】

事業計画にはなかったが、フェド杯、全日本、ジャパンオープン等の主要大会のプログラム、ポスター、チラシ等の企画・発行を広報委員会主体の作業として扱い、将来の一貫した JTA ポリシーを作れるようにスタートを切った。

プロモーション委員会（委員長：青木 弼）

1. フェド杯の支援活動

- (1) 4月 21～26 日有明コロシアム・テニスの森公園で開催されたフェド杯・アジアオセアニア予選に於いてインフォメーションカウンター設置による観客サービス・各国駐日大使他VIP 対応・通訳ボランティアの運営、出場選手への観光ツアーサービスを実施。
- (2) 7月 19～20 日 岐阜メモリアルセンターで愛ドームにて開催されたワールドグループ入れ替え戦（対スエーデン戦）に際し、日本チーム応援団結成支援活動を行なうと同時にメディアによる広報活動支援を行なう。

2. 全日本ジュニア選手権の支援活動：

大会支援のスポンサー継続支援取り付けなどの活動を実施。

3. テニスの日の支援活動：

9月 23 日（祭）に有明テニスの森公園・コロシアムにて開催された「テニスの日」運営への全面協力。

4. AIG Japan Open の支援活動：

- (1) インフォメーションカウンターの開設・運営、各種イベント開催など観客サービス向上を図る。
- (2) 東京都・神奈川県内に在る外国人が主に利用しているテニスクラブをプロモーション委員が個別訪問、マスコミ・メディア、有明のパナソニック大型ビジョンを活用するなどして AIG Japan Open の広報・観客動員活動を実施。
- (3) 有明テニスの森公園・コロシアム（協会主管）での観客動員数が昨年比約 4 千人増の 48,482 名となった。→ 選手、メディア（新聞・雑誌・TV 放送・ラジオ放送）、観客（テニスサポーター）、スポンサー対策実施の相乗効果が現れた。

5. 全日本選手権大会の支援活動：

- (1) インフォメーションカウンターの開設・運営、各種イベント開催、マスコミ・メディア

を活用した広報活動の実施による動員・観客サービスの充実化。

- (2)大会メディアルーム運営への支援活動によりメディアとの好関係の拡大を図る。
- (3)文部科学省が新設した「総合的な学習」への支援協力を実施。
- (4)土・日の観客動員数が昨年比約3千人増の約28,000名となった。

6. 東レ PPO における JTA コーナーの開設・運営 (2004 年 1 月 31 日～2 月 8 日予戦を含む)

- (1)JTA グッズ・書籍 (テニス指導教本、コートの友、メディカルセミナーCD-ROM、ITF コーチマニュアルなど) の販売。
- (2)クラブ JTA 入会の勧誘活動・テニスメディカルセミナー案内活動等を実施。

7. ホームクラブ制度の発足と運用【プロモーション委員会】

社団法人日本テニス事業協会、普及委員会、強化委員会と共同にて、ナショナルトレーニングセンター返却に伴う選手強化拠点の喪失を補填するものとして、テニス選手の為の「ホームクラブ制度」を一昨年発足させた。近藤大生プロなど 11 名の選手がこの制度を利用中にて今後の利用拡大を図っている。

8. テニスサービス協会の具現化

盛田会長の掲げる「サービス精神」を常に具現化して行くことがテニス界の発展に繋がる事を改めて確認すると同時に昨年同様 スポンサー、観客 (テニスサポーター)、テニス選手、テニス施設供給者の満足度を向上させる為の提言・活動に結びつけることにした。具体的な活動としては、

- (1)テニスサポーターの満足度を高めるマスコミ・メディアとの交流活発化。
- (2)スポンサーとの関係緊密化、満足度の向上。
- (3)テニス選手支援対策。
- (4)テニス関係団体、支援組織 (TPC 等)、インターネット事業者との関係緊密化。
- (5)テニス施設供給者 (東京都港湾局など) との関係強化。
- (6)テニスボランティアの組織化。

IT 企画委員会 (委員長: 篠崎 明毅)

1. リアルタイムスコアボードシステム運用のサポート

- ①リアルタイムスコアボードシステムについては、フェドカップ・アジア/オセアニアゾーン GI+GII 予選、フェドカップ・ワールドグループプレーオフ・スウェーデン戦、AIG OPEN 2004、第 78 回全日本テニス選手大会の 4 大会で運用し、各大会ともインターネットでの情報提供を連携した。IT 企画委員会としては、リアルタイムスコアボード運用にあたり主管委員会をサポートした。
- ②リアルタイムスコアボードシステムの改善については、14 年度一次開発として「スコア入力」、「表示機能」を開発し、「ドロー作成」、「オーダーオブプレー作成」機能追加とともに運用可能大会数を増加させるための汎用化は 15 年度送りとなっていたが、本年度においても予算面で実施することができなかった。

企画委員会 (委員長: 橋本 有史)

1. 有明テニスの森公園コートの屋内化の可能性の調査

企画委員会では「有明テニスの森公園をアジアのテニスのメッカにする」という目標にそって各種国際大会、国内大会の誘致や公園利用者数の増大のため、同地区の屋内テニスコートの整備の可能性についての検討を行った。実際には施設の所有者である東京都港湾局との密接な協議のもとに、同地区内の屋内コートの設置場所の検討、建設費の算出、スクール事業等を通じての建設費の回収、それらの事業方式、推進方式の検討を行っている。2004 年 6 月をめどにこれらの可能性についての中間報告を行う予定である。

国内大会委員会 (委員長: 姫井 義也)

1. 国内トーナメント (一般大会) の円滑な運営と管理

①トーナメント改革の推進

- 1) シングルスもしくはダブルスしか行わないトーナメントにおける賞金配分率を改訂した。(コート友 118～119 頁)
- 2) JTT 大会管理規則の改訂
予選におけるドローの構成を改訂した。(コート友 127 頁)
- 3) 全日本テニス選手権大会管理規則の改訂
本戦および予選の出場枠を改訂した(コート友 136 頁)
- 4) JTP (Japan Tennis Tour Point) の配分率を改訂した(コート友 205 頁)
- 5) JOP (Japan Official Point)
 - ・ JOP 配分率を改訂した(コート友 211～213 頁)
 - ・ JTP→JOP 換算率を改訂した(コート友 209 頁)

②全日本テニス大会を成功させる

平成 15 年 11 月 17 日(月)～23 日(日)、有明テニスの森公園コート(コロシアムを含む)で開催。賞金総額 26 百万円。男女単・複・混合複計 5 種目の本戦に、延べ 256 名が参加。観客動員数計 22,197 人。男女共単決勝戦の様子は NHK 総合 TV で放映された。

③JOP 大会の点検

諸点検の内、特記事項として、サスペンション・ポイントを賦課されたプレーヤーのチェックを厳密に行い、下記を実施した。

- 1) 過去 12 ヶ月間の累積ポイントが 5 点を越えたプレーヤーを、規則に基づき出場停止処分にした。03 年 4 月～04 年 3 月までの処分者は、04 年 5 月男子 1 名、同 6 月男子 3 名の合計 4 名(女子は 0)であったが、7 月以降は発生していない。
- 2) 過去 12 ヶ月間の累積ポイントが 4 点に達したプレーヤーに対して警告書を発行した。
- 3) 上記 2 項を、これに関する JOP 大会主催者に文書で通知した。

④その他

1) JTT 大会、JOP 大会の公認

04 年 4 月～05 年 3 月までの、JTA 主催大会を除く以下のトーナメントを公認した。

- ・ JTT 大会 14 大会(内男子 9、女子 5)。
- ・ JOP カテゴリー A の男子 115 大会、女子 96 大会。
- ・ JOP カテゴリー B の男女 14 大会。
- ・ JOP カテゴリー C の男女 46 大会。

2) スケジュール調整会議とテニスカレンダーの作成

- ・ 前項に基づき、03 年 11 月 27 日、岸体育会館会議室にて、公認大会主催関係者出席による日程調整会議を開催した。
- ・ 前項①に基づき、04 年 1 月末日に 04 年度テニスカレンダーを作成、発表した。

3) JTT 大会ディレクター会議を開催した(03 年 11 月 27 日・岸体育会館会議室内)

2. 「コート友」の発刊・販売ならびにルールの周知徹底

①「コート友 04 年版」の編集と出版。

- 1) 04 年 3 月 1 日に発行。2 万部印刷。
- 2) 04 年 3 月 1 日～31 日現在で 14,645 部販売済み。

②「コート友 03 年版」の拡販

- 1) 03 年 4 月～04 年 2 月の販売数は 4,951 部・・・①
- 2) 03 年 3 月 1 日～31 日の販売数は 12,503 部・・・②
- 3) 従って「03 年版」の販売数合計は、①+②=17,454 部

③「ルール・審判用語辞典(仮称)」の発刊は、ITF が 04 年 1 月から「テニス規則」を大幅に改訂することになったので、この動きに連動するため、発刊を 04 年度まで延期することにした。

④ルール普及と審判員育成への協力は、例年通り実施した。

3. JTP・JOP ランキングの作成・公表ならびに年間ランキングの作成・公表

- ① JTP・JOP ランキングは月例で作成し公表した。
- ② 年間ランキングの作成・公表

- 1) 年間ランキングは基準に基づき、04年1月末に作成し公表した。
- 2) 現行ランキング作成基準が現実にはそぐわないので、改訂案を作成し提出済み。

ベテラン委員会（委員長：佐藤 国三郎）

1. 第65回全日本ベテランテニス選手権大会の開催

予 選：平成15年10月6日 男子単 60,65才以上, 女子単 50,55,60才以上
 平成15年10月7日 男子単 50,55才以上
 平成15年10月8日 男子単 35,40才以上
 平成15年10月9日 男子単 45才以上, 女子単 40,45才以上

本 戦：平成15年10月6日～10月14日 9日間

種 目：男子単 35,40,45,50,55,60,65,70,75才以上 9種目
 男子複 35,40,45,50,55,60,65,70,75才以上 9種目
 女子単 40,45,50,55,60,65才以上 6種目
 女子複 40,45,50,55,60,65,70才以上 7種目 以上 31種目

会 場：名古屋市・東山公園テニスセンター

【室内外共砂入り人工芝コート20面（内4面室内）】

参加資格：①JTAに当該年度（平成15年4月1日～平成16年3月31日）の選手登録を行なったアマチュア・プロフェッショナル登録者

②ベテランJOPランキング規程によるベテランJOP取得者

参加人数：予選 男子単7種目84名, 女子単5種目50名, 計134名
 本戦 男子単9種目260名, 男子複9種目144組288名, 計18種目548名
 女子単6種目132名, 女子複7種目140組280名, 計13種目412名
 計31種目960名 総計1094名

グレード：A

補 足：ベテランJOP対象大会は、グレードAの本大会を頂点として、B1(1大会), B2(2大会), C1(2大会), C2(2大会), D1(5大会), D2(2大会), E1(6大会), E2(20大会), および日本スポーツマスターズテニス競技の計42大会がある。

2. 第27回全日本ローンコートベテランテニス選手権大会の運営協力

本 戦：平成15年10月30日～11月8日 10日間

種 目：全日本ベテラン選手権大会と同様の、男女単複31種目

会 場：佐賀市・ウィンブルドン九州テニスクラブ【天然芝コート15面】

参加資格：全日本ベテラン選手権大会と同じ

参加人数：男子単9種目158名, 男子複9種目71組142名, 計18種目300名
 女子単6種目72名, 女子複7種目71組142名, 計13種目214名
 計31種目514名

グレード：B1

補 足：全日本ベテラン選手権大会に次ぐ大会であり、わが国唯一の天然芝コートの会場である。

3. 47都道府県協会主催のベテランJOP E大会の推進と運営協力

事業内容：長寿社会を迎えた今日、47都道府県協会のベテランテニスの普及と活性化を助長するとともに、各協会の更なる繁栄を祈念して、昨年当委員会が策定した「ベテランテニスの発展拡充計画」の一方策として、昨年JTA理事会にて承認されたグレードE大会は、本年E1大会6大会, E2大会20大会計26大会となった。その承認条件は、

- ①全日本ベテラン大会の開催種目中、男女計6種目以上開催の大会であること。
- ②承認大会は各協会1大会とするが、北海道協会は2大会までとする。
- ③アマ・プロ・賞金・選手登録の有無を問わず、全国に参加を開放する大会はグレードE1、前記以外はグレードE2とする。承認料は不要とする。
- ④JTAに選手登録をしている者には、当該年度の全日本ベテラン大会の参加申込みにあたって、取得した高得点のEポイント1大会分に限り加算して申

込みをすることができる。選手登録をしていない者にはEポイントは付与しない。

以上の結果、本年度のE大会は前記の通りとなり、昨年の18大会を大きく上回り、選手登録者も平成14年度末(平成15年3月末)の5,171名に対し、平成15年12月末には5,300名に増加しており、E大会の増加により更に増加するものと思われる。

4. 日本スポーツマスターズ・テニス競技の運営と協力

財団法人日本体育協会主催大会の委託事業として、第3回大会を共同主催し、運営主管の和歌山県テニス協会の運営に協力した。

開会式：平成15年9月19日 16:30～19:30

和歌山市・ホテルグランヴィア和歌山 出席者約750名

期 日：平成15年9月20日～23日

会 場：川辺町サイクリングターミナルテニスコート

開 始 式：平成15年9月20日 09:00～09:40 全員出席

コート横の青少年研修所(台風15号の余波のため)

開始宣言 佐藤国三郎ディレクター(ベテラン委員長)

大会会長挨拶 盛田正明日本テニス協会会長

歓迎挨拶 正木義一郎和歌山県テニス協会会長、坂本信夫川辺町町長、
佐藤直子シンボルメンバー

大会開催要項の説明 大谷明広レフェリーより、昨年の大会前日の選手説明会に代え、時間をかけて懇切丁寧なる説明を行った。

種 目：男子単35才以上、男子複45才以上、女子単複40才以上

参加資格：JTA選手登録者にして、各協会の推薦(推薦方法は任意)による男女単複各1名1組による者。(各48ドローとする)

辞退が出た場合は、あらかじめ順位をつけて複数参加を申し出ている協会を対象に、ベテランJOPランキング順にワイルドカードとして割り当てる。

(最大4名4組まで)

参加人数：男子単45名、男子複39組(78名) 計123名

女子単44名、女子複36組(72名) 計116名 合計239名

不参加県が7県あり、従って参加率は定数の87%となった。

その原因は、会場までの交通の利便性が大きいと思われる。

5. 国際ベテラン大会への選手派遣

① I T F 主催 年齢別世界ベテラン選手権Aグループ大会

<団体戦>(平成15年8月10日～17日) ドイツ・BIELEFELD 1チーム2名

1)男子45才以上(DUBLER CUP) 19ヶ国中11位 廣岡孝通・小川 敏

<個人戦>(平成15年8月18日～24日) ドイツ・HANNOVER 5名

1)男子35才以上 長谷川智仁・加藤全孝・伊藤健二

2)男子40才以上 加藤全孝(単のみ)

3)男子45才以上 廣岡孝通・小川 敏

廣岡・小川3回戦敗、他は全員初回戦敗

② I T F 主催 年齢別世界ベテラン選手権Bグループ大会

<団体戦>(平成15年10月19日～26日) トルコ・ANTALYA 7チーム24名

1)男子55才以上(AUSTRIA CUP) 21ヶ国中14位 塩見芳彦・上田 滋

2)男子60才以上(VON CRAMM CUP) 22ヶ国中15位

藤井道雄・広瀬 均・恩知宗和・田中日出男

3)男子65才以上(BRITANNIA CUP) 20ヶ国中11位

藤原堅三・土屋善二・辻本 明・生川芳久

4)男子70才以上(JACK CRAWFORD CUP) 17ヶ国中5位

宮城 淳・徳弘晴輝・森 成蹊・宮地邦雄

5)女子60才以上(ALICE MARBLE CUP) 13ヶ国中10位

南井多恵子・徳弘千世香・原野幸子・金原洋子

6) 女子 65 才以上 (KITTY GODFREE CUP) 12ヶ国中 11 位

井上文枝・松岡允江・石井伸子

7) 女子 70 才以上 (ALTHEA GIBSON CUP) 12ヶ国中 7 位

村松敏子・金子千春・斉藤恵美子

<個人戦> (平成 15 年 10 月 26 日～11 月 2 日) トルコ・ANTALYA 33 名

1) 男子 55 才以上 塩見芳彦

2) 男子 60 才以上 藤井道雄・広瀬 均・恩知宗和・玉水義一・田中日出男・
安達正純・神谷邦夫・平澤敏之

3) 男子 65 才以上 藤原堅三・土屋善二・辻本 明・生川芳久・坂上日出夫・
栗田俊男

4) 男子 70 才以上 宮城 淳・徳弘晴輝・森 成蹊・宮地邦雄・伊藤光郎

5) 女子 55 才以上 永井江吏子・足立江津子・樋口五十鈴

6) 女子 60 才以上 南井多恵子・徳弘千世香・原野幸子・柚木邦子

7) 女子 65 才以上 井上文枝・鈴木美智子

8) 女子 70 才以上 村松敏子・石井伸子・金子千春・斉藤恵美子

成 績：男子 70 才以上 宮城単ベスト 4、その他の選手は初回戦敗～ベスト 8 敗

③ A T F 公認 アジア都市対抗国際ベテラン大会

主 催：タイ・ベテランテニス協会

期 日：平成 15 年 11 月 24 日～30 日

会 場：タイ・チェンマイ

種 目：男子複 50,55,60,65,70 才以上各 1 組, 女子複 50,55 才以上各 1 組, 計 7 組の
団体戦

参加選手：土屋善二・村上交周・小野敏男・川口温弘・木村康彦・渡辺 聡・
竹下友基・守屋 明・尾田行令・奥村迪雄・玉水義一・向井龍義・
松岡かよ子・小川かよ子・原 百代・福永真由美 以上 16 名

成 績：参加チーム 10 チーム中 5 位

④ I T F 公認 第 17 回北京市国際ベテラン大会

期 日：平成 15 年 10 月 23 日～26 日

種 目：男子単 40,45,50,55,60 才以上 5 種目
男子複 40,45,50,55,60,65,70,75,80 才以上 9 種目
女子単 35,40,45,50 才以上 4 種目
女子複 35,40,45,50,55,60,65 才以上 7 種目
混合複 A 115 才以上, B 90～114 才 2 種目

参加資格：JTA への選手登録の有無を問わない自由参加。知人・友人・家族の参加も
可とする。

参加選手：佐藤国三郎・村上交周・小泉 茂・浅川義基・安部策夫・小路康男・
遠藤弘海・川島マチ子・前川美智子・畔川和子・畑中八重子 以上 11 名

成 績：男子 40 才以上単優勝 小路康男
男子 40 才以上複準優勝 小路康男・遠藤弘海組
男子 50 才以上単準優勝 村上交周

実業団委員会 (委員長：仲島 彰信)

全国の実業団を対象にした大会を通じて、テニスの強化・普及を図るとともに全国実業団組織の確立を目指し、テニス界発展のために寄与する。あわせて、広報活動の積極的な推進及び事業収支の目的を達成することを目的として活動した。

1. 第 18 回テニス日本リーグ

① 1 s t ステージ：平成 15 年 12 月 5 日(金)～7 日(日)

② 2 n d ステージ：平成 16 年 1 月 22 日(木)～25 日(日)

会場：1 s t、2 n d ステージは横浜国際プール・荏原湘南スポーツセンター・松本や
まびこドーム・北九州穴生ドーム

③決勝トーナメント：平成 16 年 2 月 21 日(土)～22 日(日)

会場：東京体育館

男子 16 チーム、女子 10 チームをそれぞれ 2 ブロックに分けリーグ戦を行い、各ブロック上位 2 チーム、計 4 チームによる決勝トーナメントの実施。試合は 2 シングルス・1 ダブルスにて行う。デ杯・フエド杯選手と日本のトップ選手の出場もあつて、大会の充実が増進、各会場盛況。東京体育館は 1 日 4 0 0 0 名以上を動員。応援合戦もあり T V 放映(GAORA) も行う。選手・運営・観客の一体化も進んでいる。1 ステージの土曜日に、各地域会場にて出場選手の協力を得てジュニアクリニックを、決勝の東京体育館ではキッズテニスの実施と、東京都生涯学習文化財団と東京都教育委員会主催の親子クリニックを開催、更に日本リーグ観戦招待の展開も行う。

2. 第 17 回全国実業団対抗テニストーナメント(A 大会)

期日：平成 1 5 年 1 0 月 2 3 日(木)～2 6 日(日)

会場：大阪・江坂テニスセンター

内容：日本リーグ昇格チーム決定の大会。

男子 1 6 チーム、女子 1 2 チームにより行われ、男子上位 4 チーム、女子上位 4 チームが昇格。試合は日本リーグと同じく 2 シングルス・1 ダブルスにて行う。

3. 第 42 回全国実業団対抗テニス大会(ビジネスパル・テニス)

期日：平成 1 5 年 8 月 2 9 日(金)～3 1 日(日)

会場：軽井沢町営風越テニスコート及び NICOS テニスクラブ。

内容：男子 3 2 チーム・女子 2 4 チームの 1 シングルス・2 ダブルスによるリーグ戦及びトーナメントを行う。リーグ戦各ブロックの同順位毎にトーナメントを、全チーム 2～3 日間に渉り試合を行う。

実業団の普及大会であるが、レベルは年々向上。選手間のコミュニケーションも深まり交流試合にまで発展もしている。楽しい大会として熱気も高まり、特に懇親会は大変盛り上がる。

問題点：地域格差はあるが、女子のチーム編成に難しさがああり A 大会出場チームが減少。検討委員会を開催し、対策を検討中。また、地域テニス協会にとって実業団は財源の大きなポイントと思われるが、その組織化に意欲的でないように見受けられる。東京都テニス協会を参考として P R していきたい。

国体委員会 (委員長：森 清吉)

1. 国民体育大会テニス競技の運営

第 58 回国民体育大会 (静岡国体)

期 日：平成 1 5 年 1 0 月 2 5 日(土)～2 9 日(水)

場 所：静岡県浜松市・花川運動公園テニスコート

参加人数：成年男子 3 2 都道府県 9 6 人、成年女子 3 2 都道府県 9 6 人

少年男子 4 7 都道府県 1 4 1 人、少年女子 4 3 都道府県 1 2 9 人、合計 4 6 2 人

浜松市・花川運動公園テニスコートの一会場で開催、前年同会場で開催されたリハーサル大会(全日本都市対抗テニス大会)での経験を生かし、無事何事もなく終了しました。第 1 日目に天皇・皇后両陛下の行幸啓があり、地元静岡県成年女子の試合をご観戦いただきました。

2. 全日本対抗テニス大会の実施

第 2 7 回全日本都市対抗テニス大会 (第 5 9 回国民体育大会リハーサル大会)

期 日：平成 1 5 年 7 月 1 8 日(金)～2 0 日(日)

場 所：埼玉県川口市青木町公園総合運動場庭球場

参加人数：3 2 都道府県、3 8 1 人

平成 1 6 年 1 0 月に行われる国民体育大会の運営のリハーサル大会として開催。6 年前の正規視察より準備を進めてきた地元静岡県テニス協会のご協力を得て、無事終了するも、幾つかの問題が生じたので、この経験を生かし本大会の成功

にむけ、あと1年、万全なる準備をしてもらいたいを思います。

3. 国体テニス競技開催地への正規視察の実施

第64回国民体育大会（平成21年新潟県開催）の正規視察を下記概要にて行った。

期 日：平成15年7月28日(月)～29日(木)

場 所：新潟県 長岡市、塩沢町

参 加 者：森清吉国体委員長、杉沢雅敦国体副委員長、新潟県、長岡市、塩沢町

内 容：開催予定地のテニス施設（練習コートも含め）の視察を行うとともに、宿泊施設、輸送関係についても調査を行い、審判員や運営員の養成についても依頼いたしました。

4. 財団法人日本体育協会国体委員会への出席

①期 日：平成15年4月25日（金）

場 所：岸記念体育会館

出席者：森清吉

内 容：夏・秋季大会開催の一本化について、その他

②期 日：平成15年6月20日（金）

場 所：岸記念体育会館

出席者：森清吉

内 容：第61回国民体育大会開催地（兵庫県）の決定について

第63回国民体育大会開催地（大分県）の内定について

第59回国民体育大会夏・秋季大会実施要項総則（案）について、その他

③期 日：平成15年7月28～29日（月～火）

場 所：新潟県長岡市・塩沢町

出席者：森清吉、杉沢雅敦副委員長

内 容：第64回国民体育大会（新潟県）の第1回正規視察

④期 日：平成15年11月26日（火）

場 所：岸記念体育会館

出席者：森清吉

内 容：国体改革2003対応プロジェクト

⑤期 日：平成16年1月13日（火）

場 所：岸記念体育会館

出席者：森清吉

内 容：国体改革2003対応プロジェクト

⑥期 日：平成16年2月12日（木）

場 所：岸記念体育会館

出席者：森清吉

内 容：国体改革2003対応プロジェクト

⑦期 日：平成16年2月16日（月）

場 所：岸記念体育会館

出席者：杉沢雅敦

内 容：国民体育大会改革2003の進捗状況について、その他

選手登録委員会（委員長：会川 克行）

1. アマチュア選手の登録管理

①アマチュア選手の登録者数については、平成15年7月から再三にわたり登録更新の督促を行ったりした結果、目標とした10,000名を突破することが出来た。剰余金についても、1,000万円以上を確保することが出来て、前年同様本協会の財源に寄与することが出来た。

②新規登録者の登録方法等については、ベテラン本部新設計画と相俟って、本格的に外部委託を検討することになり、平成16年3月になって委託の候補会社より素案の提示を受けたので、新年度早急に関係部門と打ち合わせの上、決定したい。

審判委員会（委員長：森井 靖忠）

1. 各種大会へのレフェリー・審判員の派遣

年間公認審判員有資格者（B級以上）の大会希望を取りまとめ、各大会へベストの審判員を送るべく努力している。長期に亘る予定のため審判員の予定変更が多い。また大会の予算制限により、ベストの審判員のアサイメントが難しく、担当者にとって大変な作業であった。

- ①各大会の指名主審に任命された審判員は、12項目からなる「審判員の勤務環境についてのレポート」を大会毎に提出する。委員会の見解を年度末に集計しバッジホルダー審判員に配布している。
- ②レフェリー・主審・チーフオブアンパイア勤務表は別紙参照
- ③ラインアンパイア・ボールパーソン勤務数：

	ラインアンパイア	ボールパーソン
デビスカップ（豊田）	22	12
フェドカップ（岐阜）	22	12
フェドカップ（有明）	366（延べ人数）	240（延べ人数）
全日本	340（延べ人数）	260（延べ人数）
AIG Japan Open	500（延べ人数）	380（延べ人数）
他の国際大会（23）	1,200	
国内大会（1）	46	

2. 国際審判員・レフェリーの養成事業の実施

- ①有望新人の発掘と養成のため指導員の派遣

新人発掘と養成の出来る認定指導員に限られており、又認定員自身国内及び海外での審判・レフェリーの実務を要求されているため、派遣回数には限定されたが、審判・レフェリーへの関心を高めることができた。

日時：9月・10月・11月

場所：茨城・京都・須玉・全日本

参加者総数： 9名

- ②ITF レベル I 及びプレレベル III スクール開催

国際審判員の登竜門であるレベル I スクール及び国際公認審判員資格

（レベル III スクール： レフェリー・主審・チーフオブアンパイア）準備のためのプレレベル III スクールを開催した。講師：川廷尚弘

	レベルI	プレレベルIII
日時：	平成16年3月23-24日	平成16年3月21-22日
場所：	神奈川	大阪
参加者数：	19	5

- ③海外大会への国際審判員の派遣

グランドスラム大会始め、海外での日本人審判員の活躍が増えてきている。

これは国際テニス連盟及びアジアテニス連盟の期待に添うものであり、今後

アジアの審判制度のリーダーとして、日本の審判員の活躍が益々要求されることは明白である。審判委員会としては、それらの活動に対して、ほんの一部ではあるが交通費の補助を行った。

氏名	ポジション	大会名
川廷尚弘	レフェリー	Universiade Games・AIG JAPAN OPEN・パタヤ DAVIS CUP: INA vs. NZL UZB vs. HKG UZB vs. TRE FED CUP: GER vs. INA
	スーパーハッパ	WTA: タシケント・ゴールドコースト・ホバート ITF: クウェイト・長沙・深淵・岐阜・福岡・軽井沢 FISU: 大邸
岡村徳之	主審	US Open ・ 上海WTA ・ タイATP ・ 韓国ATP

大原泰次郎	主審・ライン	Australian Open・Universiade Games・ South Pacific・Games・Canberra W Classic
辻村美和	主審・ライン	Australian Open・Australian Jr. Universiade Games South Pacific Games・ Adidas Internation
大久保範子	主審・ライン	Universiade Games・Korea Futures・Busan ATP
近藤康幸	主審	Universiade Games
須山亜由美	主審	Universiade Games
松野えるだ	A レフェリー	Universiade Games

3. 審判員・レフェリーの養成事業並びに審判講習会の実施

全国都道府県協会に「審判活動と2003年のプラン調査表」のアンケートをお願いした。集計を基に、各協会からの要望・意見を検討し対策に当たった。

①C級審判員認定会

認定員：岡村徳之・川廷尚弘・増田憲司・姫井義也・松野えるだ・田中信子・大久保範子（来年度候補員2名）

都道府県からの要望により認定会及び講習会を20回開催し、およそ800名の新規審判員を誕生させた。この中から審判員育成として国際大会の主審を経験してもらった。

都道府県名：北海道・岩手・茨城・栃木・神奈川・東京・滋賀・香川・福岡
群馬・埼玉・和歌山・新潟・大分・普及指導委員会・専門学校・
関東学生連盟

②B級審判員認定会

日時：2月14・15日

開催地：埼玉県

合格者：40名

③A級審判員審査会

本年度より、認定会ではなく、年初にA級候補者を選定し、年間を通じてその人格、資質を審査することにした。本年度はA級合格該当者がなく、来年度に期待している。

④B級レフェリー認定会

15年度は実施なし。16年度6月に埼玉県で実施の予定。

⑤学連・専門学校の講習会

関東学連の講習会は例年6月に開催される。加盟大学のテニス部から最低2名の参加が義務付けられており、2日間で約300名の受講者がある。毎年数名、主審・ラインで活躍している。この中から既に国際試合の主審を経験し、AIG・デ杯・フェドカップのラインズマンを務めている。また大会審判活動に非常に協力的な専門学校の生徒を対象に講習会を実施した。

4. 諸外国の審判の実態把握ならびに審判員の待遇改善

①川廷尚弘認定員が本年度から、ITF/ATP/WTAのゴールドレフェリーに任命され、更に、ITF及びATFの要職を兼ねていることから国際情勢に精通しているし、岡本徳之認定員はグランドスラム大会において、実務経験が豊富であるため、諸外国の審判の実態を正確に把握しており、他の委員会への協力も行っている。

②AIG JAPAN OPEN・全日本選手権大会は、地方の有資格者にも働いていただくことが望ましいが、遠隔地からの希望者が少ないのは、旅費・宿泊費が支給されないことも原因の一つと考えられる。大会における審判員の希望者が年々減少するという憂慮すべき実体である。各大会の経済状態を無視することはできないが、審判員に対する待遇改善は急務である。解決策を早急に関係各位と検討し、出来るところから改善を図る努力をするつもりである。

5. 審判員・レフェリーの登録管理

公認審判員・レフェリー更新登録者数

C級公認審判員： 686名

B級公認審判員： 500名

A級公認審判員： 3名

B級レフェリー： 328名

6. コートの友（テニスルール・ハンドブック）の改訂作業への協力

「2004年度版コートの友」の改訂作業については、例年通り、審判・レフェリー関係の部分の改訂に協力した。

国際大会委員会（委員長：島中 君代）

1. 各種国際大会の後援・公認

<公認大会>

- ①東レ パン・パシフィック・テニス（東京/1月27日～2月2日）
- ②山口国際女子（山口/4月15日～20日）-新設
- ③カンガルーカップ国際女子（岐阜/4月29日～5月4日）
- ④福岡国際女子オープン（福岡/5月7日～11日）
- ⑤軽井沢国際女子（長野/5月13日～18日）
- ⑥草津国際女子（群馬/5月20日～25日）
- ⑦広島国際女子（広島/9月23日～28日）-新設
- ⑧榛原国際女子（静岡/10月16日～20日）
- ⑨昭和の森国際女子（東京/10月23日～27日）
- ⑩須玉国際女子（山梨/10月29日～11月4日）
- ⑪甲府男子フューチャーズ F1（山梨/4月7日～12日）
- ⑫昭和の森男子フューチャーズ F2（東京/4月14日～19日）
- ⑬熊本男子フューチャーズ F3（熊本/4月21日～26日）
- ⑭SANIX 男子フューチャーズ（宗像市 SARS のため市より中止要請）/5月21日～26日・5月28日～6月2日当初予定）
- ⑮兵庫国際ジュニア大会（三木市/第1週=9月3日～7日 第2週=9月10日14日）

2. 各種国際大会の主催ならびに後援・公認

<一般主催大会>

- ①JTA 女子サーキット 第1戦 グリーン国際女子オープン 2003
- ②グランドスラム募金 JTA フューチャーズ TTC 柏オープン 2003
- ③JTA 女子サーキット 第2戦 セキショウ女子オープン 2003
- ④グランドスラム募金 JTA フューチャーズ 埼玉グリーンオープン 2003
- ⑤JTA 女子サーキット 第3戦 九州国際女子オープン 2003
- ⑥JTA 女子サーキット 最終戦 日本電池マスターズ 2003
- ⑦AIG OPEN 2003
- ⑧第40回 島津全日本室内テニス選手権大会 2004（男子 ATP 京都チャレンジャー）

<ジュニア主催大会>

- ①SHUZO Challenge JAPAN OPEN JUNIOR 2003（ITF=G1大会）
- ②大阪市長杯ワールドスーパージュニアテニス 2003（ITF=GA大会）
- ③兵庫国際ジュニア大会 2003（2大会）（ITF=G5大会）

<デビスカップ>

- ①アジア・オセアニアゾーンプレーオフ
パキスタン戦（豊田市体育館：平成15年4月4日～6日）

<フェドカップ>

- ①アジア・オセアニアゾーン地域予選
（有明テニスの森：平成15年4月21日～26日）
- ②ワールドグループプレーオフ スウェーデン戦
（岐阜メモリアルセンター・で愛ドーム：平成15年7月19～20日）

3. トーナメント改革の実施（JTA承認料の明文化）

参加日本人選手にとってポイントが効果的に獲得でき、グランドスラムへ進めるように出来る大会の配置を検討。16年度はITFレベルの大会を男子8大会、女子13大会開催す

る運びとなった。またより良い大会開催のため、委員を大会に派遣したり、新設大会のサイトチェックを派遣し行った。(浜名湖、静岡、)

また、国際大会の JTA 承認料について「コート友」での記載が明確にされていなかったため、委員会で整理、検討し、6月、7月の常務理事会に提案し、公認大会の JTA 承認料について、明文化した。

4. 委員による国際大会視察の実施

①4月：デビスカップ・パキスタン戦

修造チャレンジジャパンオープンジュニア

フェドカップアジアオセアニア予選 GI+GII

②7月：フェドカップワールドグループ入れ替え戦

③9月：グランドスラム募金 JTA 男子フューチャーズ、JTA 女子サーキット

5. ATF カレンダーワークショップ等国際ワークショップの参加

翌年の国際大会日程の最終調整であるアジアテニス連盟主催のワークショップへの参加
期 日：11月6日

場 所：タイ・バタヤ (WTA 女子大会開催会場)

参加者：島中君代国際委員長、矢澤会長室長

内 容：アジア地域の 2004 年日程調整—日本の大会日程は全て認められる。

6. 国際大会ディレクター会議の開催

①6月3日：男子フューチャーズディレクター・女子サーキットディレクター会議

②6月17日：2004年カレンダー検討会議

③6月24日：委員会と大会ディレクター合同会議

④8月7日：カレンダー日程調整打合せ

⑤8月29日：カレンダー日程調整打合せ

⑥年2月5日：2005年日程検討打合せ

7. 専門委員会活動

①第1回委員会開催：平成15年4月23日

②第2回委員会開催：平成15年6月24日

③第3回委員会開催：平成15年11月19日

ジャパンオープン委員会 (委員長：有沢 三治)

1. AIG ジャパンオープンテニス 2003 の開催

当初アメリカのテロ事件でスポンサーの AIG の確定が遅れた事で準備も遅れたが、当初の目標に向かって「観客がテニス以外で楽しめる大会を目指す。トッププレーヤーの出来に頼ることなく、来年も来てくれるような大会にする。観客数の目標 5 万人」スタートした。大会を価値を如何に向上させるか、種々努力をいたしました結果、本年は幸運にも予選初日から最終日まで晴天が続きスケジュール的には極めて順調に進んだ。また、トップ選手も順調に勝ち進み男子決勝は第 1 シードと第 2 シードの対決となり理想的な組み合わせと成った。女子も人気選手のシャラポバが単複に優勝し観客動員面では日本選手の早いラウンドでの敗退をカバーした。

当初大会の目標は観客数を 50,000 人と置きその為に観客サービスの強化を図った。また同時にスポンサーサービス、選手サービスも上昇させた。残念ながら観客数では目標には 3% 及ばなかったが過去最高の 48,487 人を達成した。

大会の目標は観客とスポンサーにとっての価値を上げる事であったが昨年と比較して価値レベルが高くなって来たと感じる。IMG の報告によると大会のメディア価値も昨年から 2 億円アップの 4 億 8300 万円となった。今後は更にエンターテイメントビジネスに徹し大会価値を上げるようにしたい。

①観客サービス

- ・ 飲食ゾーン、ケータリングカー、インフォメーションブース、ジャンボスクリーン、大道芸人、お祭り広場のブース、大テント等に 1,000 万円近くの投資をした。
- ・ VIP 席用のワイン等も購入で充実を図った。

- ・今回のボランティアの組織は見事で観客サービス、大会運営に大きく貢献した。お蔭で大会も大きく盛り上がった。来年以降も更に充実される事を期待する。
- ・飲食関係をもっと充実させる事で大会での観客サービスはアップグレード出来る。
- ②スポンサーサービスの強化
 - ・観客サービスにも通じるが読売新聞での事前告知に 1,200 万円程度の投資をした。
 - ・NHK を事前に何回も訪問し中継での AIG の露出及びニュースでの取り上げをお願いした。これが効を奏したのか昨年のニュース露出ゼロに比較して今年はかなり多かった。しかし視聴率があまりに低く、番組宣伝等での今後の課題が残った。
 - ・AIG 関連の顧客サービスへの協力としてクリニック、懇談会への選手の参加等で種々の協力をした。ATP・WTA からの協力も大きかった。
 - ・マイクロソフトのインターネットでの取り上げ、及び英語の大会 Web-site、JTA のホームページの充実に 200 万円近くを使った。
 - ・オンコートイベントでの松岡修造氏の活躍が光った。
- ③選手サービス

賞金を合計で 10 万ドル近くを減らしたが契約選手のアピアランスフィー、航空券の補助、選手への食事の充実、ランドリーの補助、ホテルの部屋の充実に廻した。また、例年より選手へのタクシー、ボランティアによるベンツでの送迎等も充実させたため選手は昨年より満足の様子であった。

今後必要な事は、今回、新たに導入した色々な策を更に強化する事である。また観客サービスの一環として全体地図例えば 1・2 番コートへの道を大きく書くことが必要。

スーパーバイザーから、ATP・WTA より今年のドクターは素晴らしかったとの評価が有り医科学委員会には感謝します。今大会へのクレームは極めて少なかったが

 - ・ボールが堅くて重い。
 - ・センターコート以外のスピードが極めて速く世界中のツアーでも最も速いと言える。もう少し遅くしてセンターに近づけて欲しいとの事があった。
- ④総括

最後に特筆すべき事として電通からの独立が上げられる。これまでの事務局は電通と DMS に大きく依存していた。これは 1987 年に現在の大会規模に上げて有明に移って以来である。

これまでは少しずつ業務を JTA に取り込んできたが今年は JTA が主体性を取りながら UNO の援助を得て大会の殆どを運営した。これによる費用削減は 1,000 万円近くに上った。今回は初めてのためスタートでややもたついた感も有ったが大会が進むにつれて解決していった。今後は JTA での運営で問題なく進むであろう。

普及委員会（委員長：中嶋 康博）

1. キッズテニスの積極的な普及

- ①伊達事務所に協力して、テニスの日、全日本選手権、日本リーグでカモンキッズテニスを開催した。
- ②7月24日、8月21日の2回、東京・港区スポーツセンターにて「キッズテニス講習会」を開催した。
- ③江東区スポーツセンター数ヶ所と平成16年度開催予定のキッズテニス教室の打合せを行った。
- ④「幼稚園・小学生プロジェクト」のモデルケースの準備を開始した。

2. テニスの日事業に対する協力

- ①9月23日に「テニスの日メインイベント」を東京・有明で開催。7,000名参加。
- ②9月23日を中心とした9月下旬に「テニスの日共同イベント」を全国各地15会場で開催。
- ③9月23日を中心とした9月中旬に「テニスの日個別イベント」を全国各地会場で開催。
- ④テニスの日推進協議会・本会議を年間3回開催した。
- ⑤テニスの日推進協議会・実行委員会を年間3回開催した。

⑥テニスの日推進協議会・有明委員会を年間3回開催した。

⑦その他、必要に応じて事務局打合せを頻繁に行った。

3. コーチーズカンファレンスの開催

①2004年3月14～15日に国立スポーツ科学センターにおいて、503名の参加者で開催した。

4. スポーツ施設を守る会への活動支援

①スポーツ施設を守る会の構成団体の一員となり、テニスクラブを代表とするスポーツ施設の減少に歯止めをかけるべく、他の関連団体との連携を図り、「民間スポーツ施設に係る税制改正要望」に関する請願署名運動を推進した。

②スポーツ施設を守る会として、平成15年9月20日、自由民主党政務調査会へ要望書を提出した。また、10月7日に開催された自由民主党政務調査会「税制改正要望ヒアリング」に参加した。

5. その他

①ホームクラブ制度の現状の分析と今後の方向性に関する検討をプロモーション委員会、日本テニス事業協会と行った。

②TVドラマ「エースを狙え」に対して日本プロテニス協会、日本テニス事業協会、日本女子テニス連盟と一緒に協力を行った。

③「テニスの場と機会の確保」のためプロモーション委員会と公的施設、中学校問題に関して合同会議を3回開催した。

④プロモーション委員会のマスコミとの対話への協力を行った。

指導者委員会（委員長：正木 茂）

1. 文部科学大臣認定事業公認指導者資格付与

公認指導者資格検定会を下記の通り開催した。

①B級コーチ：前期；大阪・2003/12/19～21 参加者：28名

後期；東京・2004/2/24～26 参加者：28名

②C級コーチ：前期；大阪・2004/1/7～10 参加者：38名

後期；東京・2004/2/23～26 参加者：38名

③C級教師：前期；大阪・2004/1/7～10 参加者：16名

後期；東京・2004/2/18～22 参加者：16名

④C級教師（専門学校）：東京・2004/2/18～22 参加者：69名

⑤B・Cスポーツ指導員：青森、愛知、岐阜、京都、大阪、滋賀、愛媛の各県で認定事業を行った。

2. コーチーズカンファレンスの開催

①2004年3月14～15日に国立スポーツ科学センターにおいて、503名の参加者で開催した。

3. 公認スポーツ指導員養成講習会の開催

①各都道府県において普及員の養成講習会を行った。

②女子テニス連盟を対象に普及員の養成講習会を行った。

4. 公認スポーツ指導者講師全国研修会の開催

①2004年2月14～15日に国立スポーツ科学センターにおいて、日本体育協会助成事業の研修会を開催した。参加者42名。

5. 財団法人日本体育協会の公式会議に出席

①4月18日に東京・岸記念会館にて開催された日本体育協会の会議に出席した。

6. その他

①公認専門学校の担当教諭との会議を行った。

②文部科学大臣認定資格の日本体育協会への移行問題に関して、日本体育協会・日本プロテニス協会との打合せを行った。

③テニス指導教本の作成準備。

クラブ J T A 推進委員会 (委員長: 橋本 有史)

1. クラブ J T A 会員の登録管理および会員の増強

クラブ J T A はジュニア育成および強化に係わる資金の確保のため広く会員を募集し、その会員から会費の形で広く浄財の提供をお願いする組織である。今年度は従来より要請されていた会費の収納方式の多様化 (従来は講座引き落としのみであったが、口座への振込みも可能とした) と関東テニス協会、関西テニス協会を中心とする地域協会の多大なるご協力を得て会員数の拡大を図ってきた。その結果、2003 年度において新たに 228 名の新規の入会があった。一方 50 名の退会者があり、結果 2003 年度末の会員数は 770 名で前年比 30% の増加となった。

委員会の開催はクラブ J T A に係わる経費は最小に抑える (会費は実際のジュニア育成の現場に一元でも多く使用されるべきである) 考え方から年一回の開催とし 2003 年 6 月 2 日に開催した。2003 年度のクラブ J T A 資金を用いたジュニア育成活動 (財源は 2002 年度クラブ J T A 資金) は全仏ジュニアやウィンブルドンジュニアの遠征経費他 20 本近いプログラムの実行に役立てられている。また前年度に引き続き会員が在住する地域の協会への 30% の還元を行った。

競技者指導育成推進委員 (委員長: 飯田 藍)

1. 競技者育成プログラムの確立と実施

世界に通じるトップ選手育成と、次代に続くジュニア発掘の為に、「トップへの道Ⅲ」プログラム (ビデオ・マニュアル) をナショナルコーチの協力で作成、それに基づき、各地域でジュニアとジュニア指導者の合宿を行った。なお、上記のビデオやドリル集はコーチーズカンファレンスでも紹介するとともに活用した。

2. 地域トップジュニア選手 (14 歳以下) と指導者との合宿の実施

会場: 北海道 (札幌) ・東北 (岩手) ・北信越 (長野) ・関東 (千葉) ・東海 (静岡) ・関西 (大阪) ・四国 (高知) ・中国 (広島) ・九州 (福岡)

内容: 一貫した指導理念を基に、地域でのトレセンシステムの推進を促す、「強化指導指針」に基づく中期・長期での発掘・育成を組織的に推進するために指導者のレベル向上を目的とした、J T A 委員とナショナルコーチと、地域ジュニア委員とのミーティングを行う。また、有望なジュニア発掘を都道府県で推進するため、指導者のネットワークを組織化する目的として地域・都道府県強化コーチの指名を促す、今年度の成果は 9 地域で組織的なジュニア活動が活発化しつつあるという実感をえたことである。

2008 年に向けて今後は財政確保に取り組み、都道府県でのトレーニングセンターシステムの確立を計ることが最重要になる。

3. 地域強化コーチ・ジュニアナショナルコーチ合同合宿と J T A 役員との合同会議の実施

会長・専務理事・強化本部長・普及本部長・スポーツ科学委員長・強化委員長・ジュニア委員長・指導者委員長に出席いただき現場の声を伝えた。日本テニス協会の目指す強化の目的と方向性、各現場で活動されているコーチの視点を通して、今後の発掘・育成・強化をどのように推進していくことが重要か、J T A との連携についての問題点などを話し合った。

4. ジュニア登録制度のアンケート調査や J T A ジュニアランキングの設置に伴う研究の開始

「地域強化コーチ・ジュニアナショナルコーチ合同合宿」にて検討した、ジュニア登録制度ならびに J T A ジュニアランキングシステムの具体化を目指し、本件についての研究をジュニア委員会と共同で開始した。

5. 特別指定合宿の開催

今年度は東北 (岩手) ・中国 (広島) ・九州 (福岡) 地域でトレーニングセンターシステム構想をもとにジュニア特別合宿を開催した。3 地域ではジュニア活動の基盤作りが始まり、指導者のネットワークが確立する中、特に中国地域の活動は目覚しくモデル地区として推奨する。

6. 普及指導本部主催の全国講師研修会への参加

この研修会の目的は各地域強化コーチが研修会に参加、指導者としての一貫した指導理念と、より指導知識を高めることを目的としたもの、また、指導員検定会の内容などを伝達、今後は各地域・都道府県で開催されるセミナーでは講師としての役割を担っていく為、資格条件は公認 C 級・B 級コーチの資格を有する者、または今後取得する者とした。

強化委員会（委員長：藤井 道雄）

1. デビスカップへの参加

- ①デビスカップ アジア／オセアニアゾーン・グループ I プレーオフ パキスタン戦
期 日：平成 15 年 4 月 4 日～6 日
会 場：愛知県・豊田市体育館
監 督：神和住 純 スーパーバイザー：ボブ・ブレット
選 手：鈴木 貴男／本村 剛一／トーマス重太郎嶋田／寺地 貴弘
結 果：5 勝 0 敗でグループ I 残留が決定
- ②デビスカップ アジア／オセアニアゾーン・グループ I 1 回戦 インドネシア戦
期 日：平成 16 年 2 月 6 日～8 日
会 場：インドネシア・ジャカルタ
監 督：神和住 純 スーパーバイザー：ボブ・ブレット
選 手：鈴木 貴男／本村 剛一／トーマス重太郎嶋田／寺地 貴弘
結 果：3 勝 2 敗で 2 回戦に進出

2. フェドカップへの参加

- ①フェドカップ アジア／オセアニア地区予選 グループ I
期 日：平成 15 年 4 月 21 日～26 日
会 場：東京都・有明テニスの森公園テニスコート並びに有明コロシウム
監 督：小浦 武志
選 手：杉山 愛／浅越しのぶ／小畑 沙織／藤原 里華
結 果：総当たり戦で A ブロック 1 位となり、プレーオフ出場決定戦でインドネシアに勝利、ワールドグループプレーオフに進出
- ②フェドカップ ワールドグループ プレーオフ スウェーデン戦
期 日：平成 15 年 7 月 19 日・20 日
会 場：岐阜県・岐阜メモリアルセンター・で愛ドーム
監 督：小浦 武志
選 手：杉山 愛／浅越しのぶ／小畑 沙織／森上亜希子
結 果：4 勝 1 敗でワールドグループに昇格

3. 2003 年テグ夏期ユニバーシアード大会への参加

- 期 日：平成 15 年 8 月 18 日～9 月 1 日
会 場：大韓民国・テグ
監 督：森井 大治 コーチ：谷澤 英彦・細木 祐子
トレーナー：横山 準二
選 手：加藤 季温／宮崎 雅俊／宮崎 靖雄／宮尾 祥慈／
道慶 知子／矢部由希子／波形 純理／松井 小麦
結 果：男子シングルス 宮崎 雅俊：3R／宮尾 祥慈：3R
女子シングルス 道慶 知子：3R／矢部由希子：1R
男子ダブルス 宮尾 祥慈・宮崎 靖雄：1R
女子ダブルス 矢部由希子・道慶 知子：ベスト 8
混合ダブルス 加藤 季温・波形 純理：ベスト 8

4. ナショナルジュニア海外遠征及

<団体戦>

- ①ジュニアデビスカップ アジア・オセアニア予選
期 日：平成 15 年 4 月 25 日～5 月 5 日
会 場：インドネシア・ジャカルタ

監督：村上 武資
選手：喜多 文明／会田 翔 / 竹内 研人
結果：9位 (14か国中)

②ジュニアフェドカップ アジア・オセアニア予選

期日：平成15年5月2日～12日
会場：マレーシア・クアラルンプール
監督：田村 伸也 コーチ：長塚 京子
選手：田中 真梨／福井 恵実／高雄 恵利加
結果：優勝 (10か国中)

③ジュニアフェドカップ 世界大会

期日：平成15年9月12日～22日
会場：ドイツ・エッセン
監督：田村 伸也 選手：福井 恵実／田中 真梨／川村 美夏
結果：8位 (16か国中)

<個人戦>

①フレンチオープンジュニア遠征

(平成15年5月21日～6月9日、ベルギー・フランス)

コーチ：笠原 康樹 選手：成瀬 廣亮／中原健一郎／不田 涼子／川床 萌

②U16ヨーロッパ遠征

(平成15年6月3日～7月4日よりU14ヤングスター遠征に合流、
イタリア・フランス)

コーチ：米沢 徹 選手：喜多 文明／錦織 圭 / 富田 玄輝

③ウィンブルドンジュニア遠征 (平成15年6月16日～7月7日、イギリス)

コーチ：田村 伸也 選手：成瀬 廣亮／中原健一郎／不田 涼子／川床 萌

④トヨタジュニア遠征Aチーム (平成15年6月25日～7月13日、タイ)

コーチ：村上 武資 トレーナー：田島 孝彦
選手：会田 翔 / 藤井 貴信

⑤トヨタジュニア遠征Bチーム (平成15年6月26日～7月14日、オーストラリア)

コーチ：岩本 功 選手：竹内 研人／富田 玄輝
福井 恵実／前澤かおる／久見香奈恵／川村 美夏

⑥USオープンジュニア遠征 (平成15年8月20日～9月5日、アメリカ)

コーチ：岩本 功 選手：不田 涼子

⑦U18秋期男子アジアジュニアサーキット遠征

(平成15年10月15日～11月10日、タイ・ヴェトナム)

コーチ：兼城 悦子 選手：藤井 貴信

⑧U18アジア・オセアニア遠征

(平成15年11月21日～12月16日、マレーシア・オーストラリア)

コーチ：村上 武資 選手：竹内 研人／会田 翔 / 藤井 貴信／瀬間友里加

⑨オーストラリアンオープンジュニア遠征

(平成16年1月6日～29日、オーストラリア)

コーチ：田村 伸也 選手：瀬間友里加

⑩U16オーストラリア遠征 (平成16年2月15日～3月7日、オーストラリア)

コーチ：岩本 功／米沢そのえ
選手：伊藤 竜馬／小ノ澤 新／森田あゆみ／伊藤絵美子

⑪U18春期男子アジアジュニアサーキット遠征

(平成16年2月25日～3月29日、ブルネイ・インドネシア・マレーシア・タイ)

コーチ：兼城 悦子 選手：藤井 貴信

⑫U18春期女子アジアジュニアサーキット遠征

(平成16年3月19日～4月3日、タイ・フィリピン)

コーチ：田村 伸也／緒方 俊亮 選手：瀬間友里加／福井 恵実

5. デビスカップ強化合宿

デビスカップ アジア／オセアニアゾーン・グループI 1回戦 インドネシア戦
強化合宿（平成16年1月26日～30日、東京都）

6. フェドカップ強化合宿

- ①フェドカップ アジア／オセアニア地区予選 グループI 強化合宿
（平成15年4月15日～26日、東京都）
- ②フェドカップ ワールドグループ プレーオフ スウェーデン戦 強化合宿
（平成15年7月14日～18日、岐阜県）

7. ジュニア強化合宿

- ①男子ナショナルジュニア合宿（平成15年9月18日～21日、山梨県）
コーチ：笠原 康樹／兼城 悦子／田島 孝彦
選手：中原健一郎／井藤 祐一／藤井 貴信／会田 翔
- ②修造チャレンジ Cチーム・トップジュニアキャンプ
（平成15年9月24日～27日、山梨県）
コーチ：松岡 修造 他 修造チャレンジスタッフ
選手：大野 貴央／片山 翔／鈴木 俊哉／伊藤 潤／飯野 翔太
ロンギ正幸／松井 良賢／渡辺 輝史／福田 健司／只木 信彰
山崎 宏昭／関口 周一／鈴木 昂／山田祐太郎／内山 靖崇
- ③修造チャレンジ Cチーム・トップジュニアキャンプ
（平成15年11月12日～13日、神奈川県）
- ④修造チャレンジ Bチーム・トップジュニアキャンプ
（平成15年11月14日～16日、神奈川県）
コーチ：松岡 修造 他 修造チャレンジスタッフ
選手：大野 貴央／伊藤 潤／飯野 翔太／ロンギ正幸／渡辺 輝史
只木 信彰／関口 周一／鈴木 昂／内山 靖崇／三橋 純
藤井 貴信／小ノ澤 新／会田 翔／鶴沢 周平／熊谷 宗敏
- ⑤修造チャレンジ Cチーム・トップジュニアキャンプ
（平成16年3月9日～13日、宮崎県）
コーチ：松岡 修造 他 修造チャレンジスタッフ
選手：鈴木 俊哉／大野 貴央／伊藤 潤／ロンギ正幸／渡辺 輝史
只木 信彰／関口 周一／鈴木 昂／内山 靖崇／井上 悠苺

8. ナショナルコーチによる国際大会視察ならびに国内大会視察の実施

4月のトヨタジュニアを始め、各主要大会を視察。

9. オリンピック強化指定選手の認定

JOCに対し、下記の男子7選手、女子8選手の計15選手を申請し、認定を得た。

男子：鈴木 貴男／本村 剛一／トーマス重太郎嶋田／寺地 貴弘／加藤 純／
岩渕 聡／小野田 倫久

女子：杉山 愛／浅越しのぶ／小畑 沙織／藤原 里華／森上亜希子／吉田友佳／
宮城 ナナ／尾崎真衣加

ジュニア委員会（委員長：藤井 道雄）

1. ナショナルジュニア海外遠征及び国内合宿

<団体戦>

- ①ワールドジュニア アジア・オセアニア予選
期 日：平成15年5月19日～24日
会 場：オーストラリア・メルボルン
監 督（男子）：右近 憲三
選 手（男子）：喜多 文明／錦織 圭／熊谷 宗敏
結 果（男子）：2位（12ヶ国中）
監 督（女子）：山中 夏雄
選 手（女子）：森田あゆみ／加藤 茉弥／伊藤絵美子

結果(女子) : 2位 (11か国中)

②ワールドジュニア 世界大会

期日 : 平成15年8月11日~16日

会場 : チェコ・プロステヨフ

監督(男子) : 右近 憲三

選手(男子) : 喜多 文明/錦織 圭 /熊谷 宗敏

結果(男子) : 2位 (16ヶ国中)

監督(女子) : 山中 夏雄

選手(女子) : 森田あゆみ/加藤 茉弥/伊藤絵美子

結果(女子) : 8位 (16ヶ国中)

<個人戦>

①U14 ヤングスター遠征

(平成15年7月1日~8月9日よりワールドジュニア世界大会に参加、
フランス・オランダ・ドイツ・ベルギー)

コーチ : 米沢そのえ・櫻井 隼人

選手 : 喜多 文明/錦織 圭 /熊谷 宗敏
森田あゆみ/加藤 茉弥/小田 彩織/伊藤絵美子

②U14・U12 アメリカ遠征 (平成15年11月24日~12月25日、アメリカ)

コーチ : 山中 夏雄/白田 浩史/米沢そのえ

選手 : 森田あゆみ/加藤 茉弥/伊藤絵美子
鈴木 昂 /関口 周一/奈良くるみ/井上 雅

2. ジュニア強化合宿

①U14 女子強化合宿 (平成15年6月12日~15日、静岡県)

コーチ : 米沢そのえ/兼城 悦子

選手 : 加藤 茉弥/森田あゆみ/小田 彩織/伊藤絵美子/岩崎 舞
/長谷川梨紗/松重 貴子/重藤真知子

②U14 女子強化合宿 (平成15年6月25日~30日、千葉県)

コーチ : 米沢そのえ

選手 : 森田あゆみ/加藤 茉弥/小田 彩織/伊藤絵美子

③U12 女子強化合宿 (平成15年9月12日~15日、静岡県)

コーチ : 米沢そのえ/溝口 美貴

選手 : 奈良くるみ/井上 雅 /足立愉有子/石津 幸恵/栗林 千聡
/古賀 愛 /田島 杏奈/山外 涼月

④U16・U14 女子強化合宿 (平成15年9月25日~28日、静岡県)

コーチ : 米沢そのえ/兼城 悦子

選手 : 久見香奈恵/前澤かおる/瀬間友里加/瀬間詠里花/加藤 茉弥
/森田あゆみ/小田 彩織/伊藤絵美子

⑤U14 男子ミニキャンプ (平成15年11月22日~23日、東京都)

コーチ : 右近 憲三

選手 : ロンギ正幸/井上 悠冨/綿貫 裕介/渡辺 輝史/松井 良賢

⑥日韓テニス トップジュニアキャンプ (平成16年2月4日~9日)

団長 : 藤井 道雄 監督 : 笠原 康樹

選手 : 井上 悠冨/綿貫 裕介/福田 健司/渡辺 輝史
森本 美香/奈良くるみ/岩崎 舞 /坂東 未来

⑦ワールドジュニア日本代表選手選考・強化合宿

(平成16年3月17日~18日、福岡県)

コーチ : 右近 憲三/山中 夏雄

選手 : 井上 悠冨/綿貫 裕介/福田 健司/渡辺 輝史/松井 良賢
奈良くるみ/岩崎 舞 /坂東 未来/秋田 史帆/栗林 千聡

3. ナショナルコーチによる国際大会視察ならびに国内大会視察の実施

4月のトヨタジュニアを始め、各主要大会を視察。

4. 日韓テニス トップジュニアキャンプの開催

文部科学省の「スポーツ交流推進事業」の委嘱を受け、以下の通り事業を実施した。

- ・事業名：日韓テニス トップジュニアキャンプ
- ・実施期間：平成16年2月4日～9日
- ・事業の内容：世界で活躍することを目標としている両国のトップジュニア選手及びその指導者が交流試合などを通じて交流し、隣国同士の相互理解を深め競技力の向上に努めた。また同時期に行われる国際大会「東レ パン・パシフィックオープン」の試合観戦や練習見学、著名なレフェリーのセミナーなどを通じて「世界のテニス」を学んだ。

5. 地域ジュニア選手強化講習会の実施〔競技者指導育成推進委員会と合同〕

①プロテニスプレーヤーによる世界のトッププレーヤーの技能の分析と実践講習会
日本のトップ選手の技能（技術、体力、精神力）と世界のトップ選手の技能との差異を、世界を転戦するプロテニスプレーヤーの実体験をもとに分析し、その対応策を各地（全国4地域）の競技力指導者へ指導実習するとともに、各都道府県代表選手の実践練習会を実施した。（文部科学省委嘱事業）

1)中国・四国

期 日：平成15年11月7日～9日

会 場：広島県・びんご運動公園

講 師：プロ…辻野 隆三 ナショナルコーチ…田島 孝彦

2)関東・北信越

期 日：平成16年1月10日～12日

会 場：茨城県・科学万博記念公園テニスコート

講 師：プロ…金子 英樹 ナショナルコーチ…山本 育史

3)東北

期 日：平成16年1月23日～25日

会 場：岩手県・アリーナ・まつお

講 師：プロ…宮地弘太郎 ナショナルコーチ…堀内 昌一

4)九州

期 日：平成16年2月27日～29日

会 場：福岡県・東平尾公園博多の森テニス競技場室内コート

講 師：プロ…金子 英樹 ナショナルコーチ…坂本 真一

②地域ジュニア合宿（スポーツ振興くじ助成事業）

競技者育成プログラムに基づき、有望なジュニアの「発掘・育成・強化」を全国的に組織化していくことを目的とした合宿を行なった。コーチミーティングを多く取り入れて地域（地区）の実態を話し合い、今後の更なるプログラムの実施に効果ある対策を検討した。

1)九州

期 日：平成15年10月11日・12日

会 場：福岡県・グローバルアリーナ

講 師：飯田 藍 /米沢そのえ

2)中国

期 日：平成15年10月18日・19日

会 場：広島県・びんご運動公園

講 師：横松 尚志 /田島 孝彦

3)関東

期 日：平成15年11月1日・2日

会 場：千葉県・アポロコーストテニスクラブ

講 師：橋爪 功 /堀内 昌一

4)関西

期 日：平成15年11月15日・16日

会 場：大阪府・大阪産業大学生駒キャンパステニスコート

講 師：飯田 藍 /田村 伸也

5)東海

期 日：平成 15 年 12 月 27 日・28 日
会 場：静岡県・花川公園テニスコート
講 師：飯田 藍 /横松 尚志/岩月 俊二

6)中国

期 日：平成 16 年 1 月 5 日～7 日
会 場：広島県・広島広域公園テニス場
講 師：山本 育史/田島 孝彦

7)北信越

期 日：平成 16 年 2 月 7 日・8 日
会 場：長野県・松本南部屋内運動場
講 師：橋爪 功 /田村 伸也/岩月 俊二

8)四国

期 日：平成 16 年 2 月 21 日・22 日
会 場：愛媛県・愛媛県総合運動公園
講 師：梅林 薫 /横松 尚志

9)東北

期 日：平成 16 年 2 月 28 日・29 日
会 場：岩手県・紫波町インドアテニスコート
講 師：梅林 薫 /宮地弘太郎

10)北海道

期 日：平成 16 年 3 月 7 日・8 日
会 場：北海道・宮の森屋内競技場
講 師：広瀬 均 /田村 伸也/岩月 俊二

11)東北

期 日：平成 16 年 3 月 13 日・14 日
会 場：宮城県・名取スポーツテニスコート
講 師：横松 尚志/田島 孝彦

スポーツ科学委員会（委員長：梅林 薫）

1. JTA 強化指定選手および地域選抜ジュニア選手のスポーツ科学的サポート

JTA 強化指定選手においては、JISS(国立スポーツ科学センター)および大阪市中央体育館健康体力相談室において、体力およびメンタルの分析そしてトレーニング指導を行った。また栄養調査を行い、その分析および栄養指導も行った。地域ジュニア選手に対しては、各地域での合宿時に、テニスフィールドテストを実施し、そして体力トレーニング指導も合わせて行った。また、2004 年の 1 月 10 日～12 日に、国立スポーツ科学センター (JISS) で開催されたトレーニング測定合宿においても、JTA 強化指定選手および地域選抜選手に対して体力・メンタル・栄養・バイオメカニクスの分析を行い、その結果から個人にフィードバックを行った。(toto 助成金対象事業)

2. 日本ジュニアテニス選手の技能および戦術に関する研究

2003 年度に開催された国内大会としてフェドカップ、全日本ジュニアテニス選手権大会、兵庫インターナショナル、ワールドスーパージュニアテニス選手権大会、全国小学生テニス選手権大会、AIG オープン、国際大会としてオレンジボール (アメリカ) 等のゲーム・戦術分析を行い、年齢ごとにみた戦術 (サーブ・レシーブからの攻撃)、コート上での動き、メンタル面およびコンディショニング面からの分析と評価を行った。(JISS 委託研究助成対象事業)

3. トレーニングセンターシステムにおける地域スポーツ科学サポート体制の整備・確立

地域協会と連携して、地域トレーニングセンター設置に基づくスポーツ科学サポートの実施体制を確立することを目的として、各地域のスポーツ科学に関する施設・情報等の調査を行い、その実態を把握することができた。今後、さらに地域のスポーツ科学サポートを

充実させていく上でも、地域のハード面およびソフト面の調査および情報の共有を積極的に行い、中央と地域とがスポーツ科学に関する情報をお互いに伝達できるシステムの開発をさらに推進していくことが重要であると認識できた。(toto 助成金対象事業)

4. プレーヤーズノートの改訂作業および出版

ジュニア選手に対してスポーツ医科学情報、測定結果や練習の記録等で日々のトレーニング・利用されているプレーヤーズノートの改訂作業を行った。数回の会議および内容の検討を行い、できるだけ選手の活用度の高いものとする事で意見が一致し、改訂版としては3000部を印刷した。(1200円/冊)ジュニアの大会および地域のジュニア合宿および指導者講習会等で販売し、その啓蒙活動を積極的に推進した。

5. 地域ジュニアテニス選手に対しての体カトレーニングに関する研究

地域ジュニア選手を対象に、ジュニア合宿時を利用して、体力測定および体カトレーニング指導を行った。体カトレーニング指導については、指導者に対してその必要性およびトレーニング方法を徹底するために、冊子およびトレーニング試技用のCDを作成した。それと元に、各地域の指導者ともミーティングを行い、情報の伝達を行った。

(ヨネックス財団助成金対象事業)

6. ITF コーチワークショップへの参加

2003年10月21日から26日の5日間に渡って、13th ITF Worldwide Coach Workshop が、ポルトガルのヴィラモウラの Dom Pedro golf & Forum Conference Center で開催され、スポーツ科学委員会から梅林 薫、佐藤陽治、須田和裕、道上静香の4委員と、強化委員会委員であり、JOC 在外海外研究員でもあるから植田 実氏の5名が参加した。今回は一般研究発表のセッションもあり、佐藤氏 (Conditioning and Training 分野)、須田氏 (Technology 分野)、道上氏 (Biomechanics 分野) の3演題の発表を行った。海外の研究者およびコーチ (指導者) との活発な意見交換もでき、有意義なワークショップであった。

ドーピングコントロール委員会 (委員長: 助川 卓行)

1. ドーピング検査の実施

①全日本テニス選手権大会におけるドーピング検査

実施期間 : 平成15年11月19日(水)の1日

場所 : 有明コロシアム(東京都江東区)

対象 : 男子選手5名、女子選手5名 の計10名

検査要員 : 検査員7名、助手7名 の計14名

検査結果 : 検査分析結果は、全員”異常なし”との判定を得た。

事業の経費 : スポーツ振興くじ(TOTO)の助成を受け、予算内で充実した検査を実施することが出来た。

事業の成果 : 本大会におけるドーピング検査は6回目になり、選手達も協力的であり円滑に実施することが出来た。

対象選手10名の内、8名が初めてドーピング検査受けることとなったので、それらの選手に対し、検査完了までの時間を活用し、アンチ・ドーピングについて個別に解説を行ないアンチ・ドーピング啓蒙の良い機会となった。また、ドーピング検査も6回目にもなると、選手・コーチ達の意識も変わり大会前から大会中も、服用中の薬に禁止薬物が含まれていないかとの問い合わせのケースも目立ってきた。全日本クラスの選手達にアンチ・ドーピングに関する認識、理解が高まって来ていると思われる。

②全日本ジュニアテニス選手権大会におけるドーピング検査

実施期間 : 平成15年8月10日の1日

場所 : 靱テニスセンター(大阪市)

対象 : 男子選手3名、女子選手3名 の計6名

検査要員 : 検査員5名、助手5名 の計10名

検査結果 : 検査分析結果は、全員”異常なし”との判定を得た。

事業の経費：スポーツ振興くじ(TOTO)の助成を受け、予算内で充実した検査を実施することが出来た。

事業の成果：今回の検査対象選手は、大会日程の関係で6名全員が16才以下の選手になったため、選手の精神的負担を少なくすべく、出来るだけ柔らかな対応を心がけた。

それにより、終始明るい雰囲気の中で検査を実施することが出来たが、検査完了までの時間を活用して、アンチ・ドーピングにつき諸資料を配付し、懇談形式で具体的に解説した。選手の年齢が低いこともあり、親の同伴が多かったため、親にもアンチ・ドーピングの知識を持って頂く良い機会となった。なお、配布した資料を持ち帰らせ、後日検査結果を知らせる文書にてもフォローした。これらの対応により、アンチ・ドーピングの啓蒙という面で大きな成果を挙げることが出来た。

③検査体制を整備するため、JADA(財)日本アンチ・ドーピング機構)のメディカルオフィサー、テクニカルオフィサー養成講習会に、当委員会委員の推薦と援助を行った。

〈1〉JADA ドーピング・コントロール・オフィサー養成講習会への受講推薦と受講完了者

平成15年度 第1回養成講習会

開催日：平成15年6月1日(日)

場 所：国立スポーツ科学センター 大研修室

受講者：菊池 哲郎、岡 知珠

平成15年度 第2回養成講習会

開催日：平成15年10月12日(日)

場 所：国立スポーツ科学センター 大研修室

受講者：諸川 玄

平成15年度 第3回養成講習会

開催日：平成15年12月14日(日)

場 所：国立オリンピック記念青少年センター センター棟4階

受講者：三谷 玄弥

〈2〉平成15年度 末現在 JADA 認定者

メディカルオフィサー：助川 卓行、別府 諸兄、及能 茂道、石井 庄次、
奥平 修三、計 5名

テクニカルオフィサー：服部 雅彦、宮城 操、高橋 和子、松村 佳永子、
岡 知珠 計5名

2. サプリメント対応

①全日本テニス選手権大会におけるアンケート調査の実施

平成15年11月17日(月)～11月23日(日)、有明コロシアム及び有明テニスの森公園テニスコートで開催された全日本テニス選手権大会において、予選本戦出場選手約600名に対し、「食事とサプリメントについて」アンケート調査を実施した。

しかし、残念ながら回収出来たのは、25枚にとどまり、サプリメントの使用状況を把握する資料にはならなかったが、全日本クラスの選手の実態を僅かではあるが垣間見る事が出来た。回収不良の要因は、大会時では、選手に精神的な余裕が無く、調査項目も多かった事も影響したように思われる。この反省点を十分に検討し、平成16年度に選手委員会等のご協力を得て再度実施する予定である。

②サプリメントに関する資料や情報の収集は、予算をかけることが出来ないながらも、着実に蓄積している。

3. アンチ・ドーピングの啓蒙

①JTA ホームページに、アンチ・ドーピングに関する啓蒙記事「アンチ・ドーピング活動について」「アンチ・ドーピング最近の話題」を掲載した。また、JADA 認定の禁止薬物が含まれていないスポーツドリンク等についての情報やアンチ・ドーピング使用可能薬リストなど最新情報を掲載した。

②全日本テニス選手権大会のプログラムに「アンチ・ドーピング最近の話題」の記事を掲載した。

- ③「テニス指導教本」改訂版用に「アンチ・ドーピングについて」の原稿を提出した。
- ④平成16年2月28日(土)大阪・靱テニスセンターにて行われた「スポーツ指導員講習会」における「ドーピングについての講義」につき、担当講師として奥平修三委員を派遣した。
- ⑤ナショナル選手やコーチからの使用可能薬等の照会に対応した。
- ⑥JOCからの「喘息に対して使用可能な薬剤」の取り扱い変更に伴う確認依頼により、JOP上位の男女15名に対し照会をした。予めの検査が必要な選手は無く、JOCにその旨回答した。
- ⑦JADA(日本アンチ・ドーピング機構)からトップアスリート20名に対する「アンチ・ドーピングに関する意識調査」の協力依頼があり、男女各10名計20名にJADAへの回答を依頼した。
- ⑧世界アンチ・ドーピング規定が一部変更され、2004年4月1日から世界統一基準として適用されることになったので、平成16年3月27日(土)ドーピングコントロール委員会を開催し、変更点及び今後の取り扱いにつき協議した。この情報については、ドーピング判定委員会へも連絡し、委員への資料の配付をお願いすると共に、早急の対応を依頼した。なお、この件に関しては、「コートの友2004年版」に世界アンチ・ドーピング規定が統一基準としてスポーツ界と各国政府の合意を得て適用される旨掲載を依頼した。

ドーピング判定委員会 (委員長：渡邊康二)

1. ドーピング検査陽性反応者発生時の対応

ドーピング判定委員会は、ドーピングコントロール委員会が実施するドーピング検査において、陽性反応が出た場合に活動するものであり、本年度も陽性反応者が発生しなかったため主立った活動はなし。

危機管理委員会 (委員長：内山 勝)

昨今の海外の紛争・テロ等の危険地域への選手の派遣及びサーズや鳥インフルエンザ等の感染症への対応、更に海外・国際の大会開催時に於ける災害等に対応する為に設置された危機管理委員会として正式に発足した最初の年であり、下記の通りの活動を行った。

1. 危機管理マニュアル(案)の作成

①まず、危機管理マニュアルの作成から手がけ、原案を作成した。

2. 緊急連絡網の作成

①海外派遣緊急連絡網

日常的に海外に遠征している選手が多数いるため、この連絡網を完成させた。

②感染症及び防災の為に緊急連絡網

上記2件の連絡網の原案を作成した。

3. 感染症対策

①国際テニス連盟公認の男子の国際試合、サニックスオープンの開催に際し、サーズ感染地域からの選手の入国を許可するかどうかを医事委員会と相談し、最終的には地元行政の要請もあり、大会を中止した。

4. ジュニア選手のイスラエルの国際大会への参加中止勧告

①民間クラブからジュニア選手をイスラエルの国際大会に参加させたい旨の依頼があったが危険地域の為、参加を中止するよう強く勧告し、参加中止とさせた。

以上